

「東京真田町の会」会報

# 日本タボス

平成 24 年 12 月 22 日



## 冬まっさかりの菅平高原

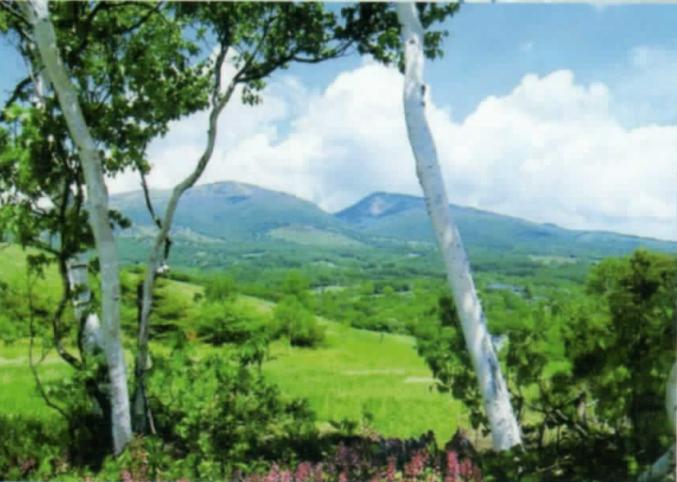
… 裏太郎ゲレンデから根子岳・吾妻山を望む…

写真提供：真田地域自治センター産業観光課

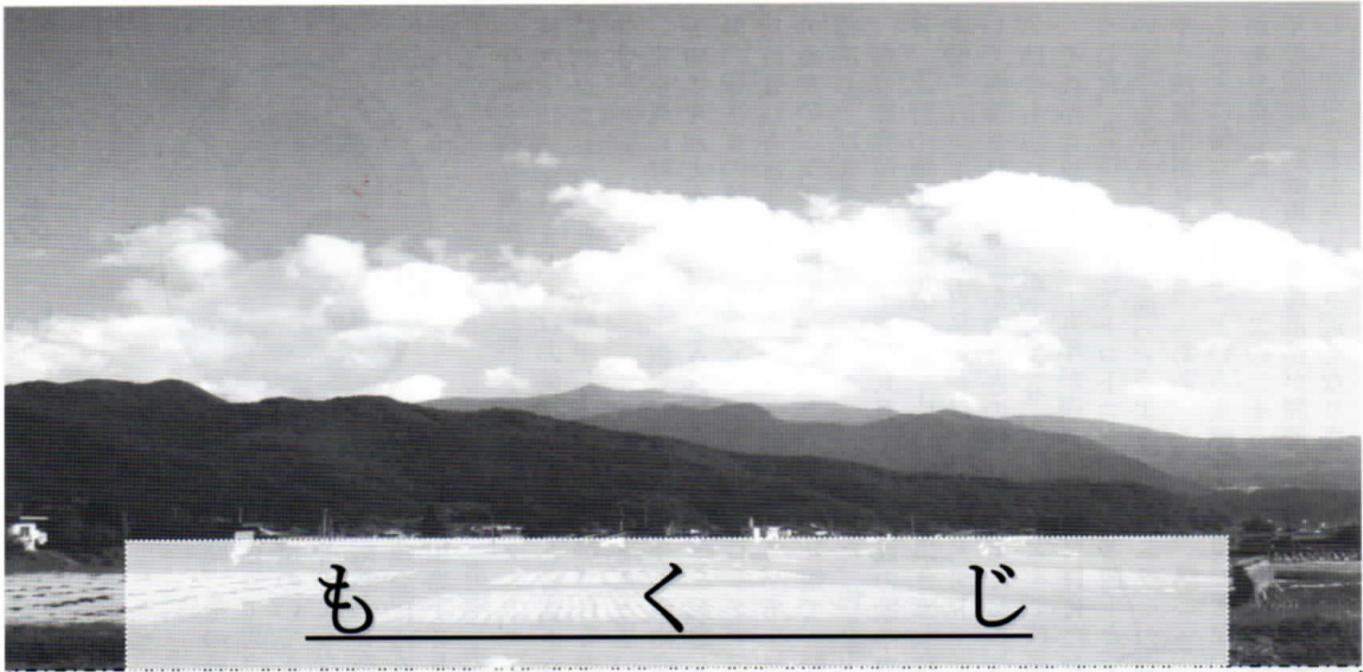
NO.

25

# 故郷の写真アラカルト…菅平高原



写真提供: 真田地域自治センター 産業観光課



# もくじ

一	表紙(冬真つ盛りの菅平高原)	編集部	一
二	故郷の写真アラカルト:菅平高原	編集部	二
三	目次	編集部	三
四	ごあいさつ	山口 元彦	四
五	魅力と活力ある上田市の創造に向けて	母袋 創一	四
六	過去からの贈り物、未来への贈り物	尾島 勝	五
七	真田地域のさらなる発展を見据えて 真田地域自治センター長	高橋 義幸	六
八	観光のまち「上田を歩いてみませんか」	清水 俊治	七
九	東京真田町の会の総会に出席して	半田 大介	八
一〇	元気な故郷であるように	古市 順子	八
一一	東京真田町の会の総会に出席して	三井 和哉	九
一二	日本ダボスに寄せて	小山 晃	一〇
一三	古い着物	鈴木 邦子	一〇
一四	ベトナム訪問記	花岡 孝雄	一一
一五	真田町郷土史研究会に参加しよう	内海 宏光	一一
一六	放射性廃棄物の処理について	古市 礼子	一二
一七	運が良いのか悪いのか	堀内 幸	一四
一八	親睦旅行会に参加して	堀内 敏文	一六
一九	東京真田町の会の旅行に参加して	中島 正江	一七
二〇	第二五回定期総会・懇親会のご報告	鈴木 邦子	一八
二一	各部の活動報告	各担当理事	二二
二二	「真田三代語り部の話題」の紹介	編集部	二二
二三	自分誌抜粋	柳澤 實	二五
二四	私の人生の一ページ	飯島 啓三	二六
二五	会員の皆様の近況報告抜粋	編集部	二六
二六	会員消息・おしらせ等	編集部	三一
二七	平成23年度 決算報告書	事務局	三二
二八	平成24年度 事業計画・収支予算・役員名簿	事務局	三二
二九	資料・編集後記	編集部	三三
三〇	広告	編集部	三四
三一	資料・写真	編集部	三七
三二	故郷の写真アラカルト:あちらこちら	編集部	三九
三三	裏表紙(広告:真田不動産)	編集部	四〇

「いあいさつ」

会長 山口元彦  
(横沢出身)



今年も残り僅かになりましたが、皆さまにおかれましてはお健やかにお過ごしのことと拝察申し上げます。

東京真田町の会は、本年創立二十五周年を迎えました。ひとえに、会員の皆さまの絶大なご協力と、旧真田町及び合併後は上田市の皆さまの温かいご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

創立総会は、昭和六十三年九月十日、上野の池之端文化センターで、総勢三百三十名もの方たちが参加して開催されました。あのときの熱気は今も忘れることができません。それから早くも二十五年が過ぎました。昔は、信越線でトコトコといくつものトンネルを通って、ようやく浅間山が見えると、「ああ、ふるさとに帰ってきたな」という実感がありません。しかし、この二十五年の間に、新幹線や高速道路が開通し、ふるさとがたいそう近くなりま

した。その結果、「ふるさとは遠くに在りて思うもの」という「郷愁」は遠のいてきている感じがします。そのような状況の中でも、この会が厳然と存在し続け、毎年の総会・懇親会には多数の会員の皆さまがご出席下さり、ふるさとからも市長様、市議会議長様をはじめとするトップの方々がご列席下さって、ふるさと言葉を交えながら交流することができているのは、本当に素晴らしいことだと思います。

今年の総会・懇親会では、二十五周年を記念し、これまでに発行した「日本ダボス」の表紙を拡大コピーしてパネル展示しましたが、かなりの壮観で、歴史が感じられました。また、佐久市ご出身で日本クラウン所属の歌手岩田美智子さんにご出演頂きました。岩田さんは、真田幸村大河ドラマの実現を歌で全国に訴えておられ、「真田のおんな旅」などを披露くださいました。

NHKに対する要請署名は七十八万四千と、目標を大きく超え、大河ドラマの実現が期待されましたが、残念なことに、二〇一四年には実現できないとのことでした。

今年の会員親睦旅行は、ふるさと訪問として取り組み、真田地域自治センターのお力添えをいただいで、

幸村夢工房での「そば打ち」体験、真田六文銭太鼓演奏観覧、真田氏歴史館参観、リングゴ狩り、信濃国分寺資料館見学などを行いました。日曜日にもかかわらず、センター長さんをはじめ職員の方たちが付き添って下さり、お土産までいただきたくないそうお世話になりました。この場を借りて、あつく御礼申し上げます。(宿泊は鹿教湯温泉)

招待しあい(東京武石会は上田会に合流しました)、また、ゴルフは上田会と当会が共同でコンペを開催するようになりました。当会の独自性を大切にしつつ、新生上田市の他地域の方たちとのつながりも拡げていきたいと思えます。

ふるさとの力強い発展と、真田一族が今なお全国のたくさんの人たちに感銘を与えている事実を、私たちの心よりどころにして、これからも、東京真田町の会を盛り立ててまいります。

魅力と活力ある上田市の創造に向けて

上田市長 母袋創一



東京真田町の会の皆様には、御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

また日頃からお寄せいただいております温かい御支援と御協力に心から感謝申し上げます。

9月5日に発生した浦里小学校の火災は、多くの映画やドラマの撮影地にもなっていたことから全国

的に大きく報道され、皆様に御心配をお掛けしたことを存じます。歴史と伝統に培われた木造2階建ての本校舎と北校舎を消失するという非常に残念な事態となりましたが、現在は、延焼を免れた南校舎等にて学校生活が再開され児童全員が元気に登校しております。子どもたちの平穏な学びの場を一日も早く取り戻すよう取り組んでまいります。

一方、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による被災地では、発生から一年半以上が経過した現在もお、子どもたちが屋外での活動が制限されるなど不自由な生活を余儀なくされています。そのよう

な被災地の子どもたちに元氣を出して欲しいと、1月には仙台市内の小学校6年生と上田市内に避難している子どもたちと保護者あわせて70人の皆様を菅平高原に御招待しスキーなどを楽しんでいただいたほか、被災した子どもたちに豊かな自然の中でのびのびと過ごしてもらおうとする活動が市内各地で行われています。また、上田真田まつりでは、被災地の水産物や農産物等の特産品を販売する「復興支援物産展」を開催し多くの皆様に御購入いただきました。今後も現地の支援ニーズに合わせ、市民、企業、団体の皆様と連携し息の長い支援に努めてまいります。

さて、国内の経済情勢は緩やかに回復しつつあるとされているものの、依然として世界景気のさらなる冷え込みや金融資本市場の大きな変動が国内景気を押し下げること懸念されております。長野県内の経済は横ばい圏内の動きで、雇用・所得で改善の動きに停滞感がみられるとされており、市内の雇用情勢も依然として厳しい状況にあります。今後も地域経済の活性化を最優先課題として取り得る手立てを最大限講じてまいります。

取り巻く情勢は決して楽観できないものではありませんが、発足7年目となる新生上田市は第一次上田市総合計画「後期基本計画」に基づき「日本のまん中 人がまん中 生活快適都市」の実現に向け、更なる

進化を目指し新たな歩みを進めてまいります。

上田地域の将来を見据え、地域全体の発展を目指す「上田地域定住自立圏構想」は、昨年7月に周辺5市町村と締結した「上田地域定住自立圏形成協定」に基づき各種取り組みを順調に始めております。また、協議を重ねてまいりました真田地域隣接の群馬県吾妻郡嬭恋村との圏域形成についても、真田氏を活かした観光振興をはじめとする取り組みにより圏域全体の発展につながるものと期待して、全国で6番目、東日本では初となる県境を超えての協定を10月9日に締結いたしました。

平成26年秋の開館を目指し整備を進めております交流・文化施設につきましても、建設工事が本格的に着工となりました。大小のホール、美術館、スタジオやアトリエ、広場など様々な機能をあわせ持つこの施設は、市民が集い、文化芸術が薫るまちづくりとして、文化振興だけでなく新たな地域の魅力と活力を生み出す拠点として整備してまいります。

真田総合福祉センター大会議室の照明及び床面についても高齢者や障害のある方に利用しやすく安心して活動して真田地域の事業といたしましては、災害時や消防団活動の拠点となる分団拠点施設を昨年の菅平地域に続き傍陽地域で傍陽小学校の隣、旧村役場跡地に整備

してまいります。また、会議や研修会等の利用が増加している真田中央公民館大ホールの照明設備について機器交換により照度向上の改善を図っております。ただけるよう改修してまいります。近年の登山ブームにより訪れる皆様が增えております根子岳登山道をより安全に楽しんでいただけるよう損傷部分を中心に擬木で改修いたしました。ふるさとお帰りの際にご覧いただけますましたら幸いに存じます。

全国的な人気を誇る真田氏の歴史を生かして観光振興を図ることを目的に真田氏にゆかりのある上田市と群馬県内11市町村で平成22年に設立した「真田街道推進機構」は、今年9月に長野市が加盟し、より一層広域での連携した取り組みを進めております。平成26年の大河ドラマの放映はなりませんでしたが、今後も真田氏ゆかりの地

域と連携しつつ、放映実現に向け積極的に取り組むと共に観光に関する環境整備を進めてまいります。

上田市は、新市発足以来の目標に掲げてまいりました「地域の個性や特性が生かされ 地域力が発揮されるまちづくり」に向け、新たな地方自治の創出を目指す地域内分権の最終過程に踏み出してまいります。多彩な市民力と多様な行動力の参加、参画により、地域の輝く個性が活かされる新たなまちづくりに取り組んでまいります。皆様には、大きな可能性を持ち発展に向けて着実に前進する故郷上田市を暖かく見守っていただき、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を心からご祈念申し上げ、会報「日本ダボス」に寄せるあいさつと致します。

## 過去からの贈り物、未来への贈り物

上田市議会議長 尾島 勝



「日本ダボス」第二十五号の発行おめでとうございます。また、上田市議会の議長として挨拶文を掲載させて頂く機会を頂戴いたしましたことに対しまして、御礼申し上げます。あらためまして、皆様方の日頃のご活動に対しまして、敬意と敬意を表します。

今年4月の臨時会で上田市議会

の荣誉ある四代目の議長に就任させていただきました。地方分権改革が進展する中での議会運営を担う重責を痛感し、決意を新たに日々上田市民の幸福の実現、上田市の発展のために邁進しております。大変忙しい毎日ではありますが、この職に就いているからこそ得られる出会いを糧にしながら私なりに上田市の発展に尽くしたいと考えております。そうした機会の一つとして東京真田町の会にも過日出席させていただきました。大勢のふるさとを愛する諸先輩に出会え、多くのことを学ぶことができ心から感謝しております。

さて、昨今、「地域づくり」という言葉をよく耳にしますが、誰が、いつ、どのように行うことが地域づくりなのか、どうしたら進めていけるのか。こんなことを秋の夜長に考えてみました。

「住んでいる地域を愛する心がなければ地域はよくならない。」とよく言われ、私は本当にそのとおりであると思っています。それでは地域を愛するとはどういうことかと考えてみますと地域に誇りを持つことではないかと思っています。「地域に誇りを持つ」？これもわかりにくいのですが、私は、まず、住んでいる地域を知ることからスタートすべきと考えています。自分の地域の自然、歴史、風土、産業の特色等を知ることにより、他にはない独自性を発見することができます。

このような視点で真田地域の特色を再確認しますと冷涼で四季を織り成す豊かな自然、そして真田一族の出身地ということが際立っていると思います。今、上田市全体で真田氏、とりわけ幸村をキーワードとした地域づくりが行われていますが、幸村は弱きを助け、強者に果敢に挑戦した誰もが認める英雄的武将であります。真田一族の名声は他市では真似のできない「過去からのありがたい贈り物」だと思っています。

この過去からの贈り物を誇りとし、地域づくりに生かしていきたいと考えていますので、東京に在住の皆様も折を見て、どうぞ宣伝をよろしくお願いいたします。

「あなたは、あの真田幸村の出身と同じ上田市の真田の出身ですか。」と問われましたら、是非とも「いいえちよつと違うんです。私は、真田幸村公の出身と同じです。」と必ず「公」をつけ敬ってご紹介いただけたらありがたいと思います。山梨県民は、決して武田信玄とは言わず信玄公と表現するとお聞きしています。このような小さいけれども一人ひとりの郷土への思い、誇りから地域づくりは始まっていくものと考えております。

ふるさと真田地域の概況であります。地域特性が時代の変化に対応して生かされ持続発展していけるよう議会も行政と一体となり取り組んでいます。その一つとして、

公共交通対策があります。地域にとりましては毎日の生活に関わる大変切実な問題であります。こうしたことから昨年に真田地域公共交通利用促進協議会が自治会を始めとして健康・福祉関係団体、農業関係団体、商工観光関係団体、建設関係団体、教育関係団体などあらゆる関係者の皆さんを網羅して組織され現在取り組まれています。行政も議会も、まさに市民協働で解決すべき課題と認識しております。安全で安心して生活できる地域づくりの一つとして子孫に喜ばれる「未来へ

の贈り物」となるよう議会といたしましても住民目線で今後も邁進してまいります。いづれにいたしましても、市町村から国そして世界まで課題多き今ではあります。自ら努力するしかありません。上田と東京を結ぶ大切な絆であります皆様方の忌憚のないご意見もお寄せいただきたいと存じます。

この会報を通じ交流がさらに深まり、東京真田会が益々発展されますることを心から祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 真田地域のさらなる発展を見据えて

真田地域自治センター長 高橋 義 幸



気持ちに深く感銘を受けると同時に、真田氏発祥の郷として歴史と伝統に培われた真田地域、また、高原野菜とスポーツで全国に名を馳せる菅平高原を預かる責任の重さをひしひしと感じ、引き締まる思いであります。

本年4月から真田地域自治センター長を拝命し、初めて東京真田町の会総会に参加させていただきました。総会後の懇親会では皆様に大変に御世話になり楽しいひと時を過ごしてまいりました。

和やかな席で様々なお話をうかがい、皆様の故郷「真田」を想う熱い

8月4日には山口会長に御参加をいただき、第28回となる真田まつりを盛大に開催いたしました。真田地域に拠点を置き活躍している劇団TOKYOBOWZ(トウキョウボウズ)が扮する信州上田おもてなし武将隊と甲冑隊による騎馬合

戦劇や地域が誇る信州真田鉄砲隊演武、信州真田六文銭太鼓保存会による勇壮な太鼓演奏など多彩な催しで盛況でした。さらに東京真田町の会の皆様から大変な御支援を頂戴した真田三代応援花火も夏の夜空を華やかに彩り、地域の皆さんに大いに楽しんでいただきました。

10月28日から同月29日には役員の皆様の御配慮により上田市へのふるさと訪問を開催していただき、大勢の会員の皆さんが上田市を訪れてくださいました。昼食には、ゆきむら夢工房で地元産のそば粉を使った打ち立てのそばを味わっていただきました。その後、信州真田六文銭太鼓の演奏や真田氏歴史館を御観覧いただき、地元のリンド園ではもぎたての故郷の味の舌鼓を打っていただきました。鹿教湯温泉での宿泊と翌日は信濃国分寺資料館など市内を観光していただき、秋の深まりゆく真田地域と上田市をお楽しみいただけたのではないのでしょうか。

真田幸村公を取り上げた大河ドラマの放映を願う全国的に繰り広げられた署名活動では、東京真田町の会の皆様から多くの御署名をいただき誠にありがとうございます。今年4月時点で78万3千人を超える署名が寄せられ、現在も引き続き全国から多くの署名が届いております。あらためて真田氏の人気の高さを再認識するとともに、真田氏発祥の郷の持つ魅力の大きな可

能性を感じております。

目標としていた平成26年の放映はなりませんでしたが、来るべき放映実現に向け一層の機運の醸成を図り環境整備に取り組んでまいります。

ラグビー合宿の聖地として全国の強豪が集い賑わう菅平高原では、この夏11年ぶりにラグビー日本代表の合宿が行われました。2019年にはラグビー世界一決定戦であるワールドカップが日本で開催されます。オリンピック、サッカーワールドカップに次ぐ世界3大スポーツイベントといわれるこの大会がアジアで初開催されることにより、日本が世界中から注目されるとともに数百万人の観客、選手関係者が日本を訪れます。「日本ラグビーにとつて伝統ある菅平は環境も含めて合宿にふさわしい」と日本代表ヘッドコーチから絶賛していただいた優位な地の利を十分に活かしたいと、キャンペーンを指してまいります。

新市発足以来、上田市は将来にわたり安心して暮らし続けられるまちづくりを目標としております。大きな苦難にも怯むこと無く、勇猛果敢に挑んだ真田氏の誇りが根ざす地域の文化、特色を活かし、真田地域の将来を見据えて地域が輝くまちづくりに取り組んでまいります。おわりに、東京真田町の会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

## 観光のまち「上田を歩いてみませんか」

上田市議会副議長

清水 俊治



東京真田町の会の皆様には健やかにてお過ごしのこと、お慶びを申し上げます。五月二十日の総会にお招きをいただきまして厚く御礼を申し上げます。

今年の夏は暑い日が続きまして、体調を崩された方も多くおられたことと思います。上田市内の山々も、上田城跡公園のけやき並木紅葉祭りも、十一月三日から始まり観光客で賑わっております。

今回は観光問題について、東京真田町の会の皆様にお知らせをします。

平成二十三年度に上田市を訪れた観光客数は上田城跡が「二、四二千人」、信州の鎌倉と言われる

地域が「三六七千人」、別所温泉だけの方が「七七九千人」、鹿教湯温泉、丸子方面が「四二二千人」、菅平高原が「一、〇三二千人」と真田町を中心にした真田氏に関係した神社や寺院、山城にかなりの人に来ていただきました。

この他上田市内の主な行事として「信濃国分寺の八日堂縁日」、これは一月七日〜八日にかけて近在はもとより県外から多数の皆様におでかけを頂いております。

四月に入りまして、「上田城跡千本桜まつり」、これは大型バスの駐車場で苦慮しております。また第三十回「上田真田まつり」、「武者行列や陣太鼓」、「真田鉄砲隊の演技」等、また「美ヶ原高原の開山祭」もこの時期です。

六月に入りますと「菅平高原のカルトリーフェスティバル」、菅平はこの行事が終わると本格的なラグビーやサッカー、テニス、また陸上強化選手が入ってきて賑わい始まります。

七月の「別所の岳の幟」は雨乞いの伝統行事です。昔から続いている「上田祇園祭」、そして夏の夜上田が熱く燃える「上田わっしょい」があります。

八月はなんといっても「真田町の夏まつり」、花火大会、続いて千曲川岸で行われる「信州花火大会」や、丸子の依田川で行われる「爆水ラン、イン依田川」と言いまして、依田川の水のある中や川の中の草むらの

中を走る競技があります。九月に入りまして、三年ほど前から日本一の秋祭りとして「真田幸村公出陣ねぶた祭り」、今年七台のねぶたが生まれて、上田駅前広場から松尾町、海野町の商店街をねぶたと共に練り歩き人の波でいっぱいでした。

十月に入りますと「真田幸村ロマンウォーク」と言いまして、町内の何ヶ所かを徒歩で訪ね歩く行事があり今年も県内外から多くの人が参加しました。

十一月に入りますと上田城跡の「ケヤキ並木紅葉」まつり、十二月に入りまして「菅平のスキー場開き」、武石の「番所ヶ原スキー場開き」、「鹿教湯氷灯籠夢祈願」などが行われます。

かけあしで今回は上田市の観光について書かせていただきました。上田は一年をとうしまして色々な行事があります。ふるさと上田、そして真田町へ是非お出かけください。お待ちしております。

## 東京真田町の会

### の総会に出席して

上田市議会議員

半田 大介

平成22年4月から市議会議員をさせて頂いております半田大介

と申します。若輩者ではありますが、どうぞよろしく願います。

菅平高原から美ヶ原高原まで続く広大な上田市で、私は現在、塩田平に住んでおりますが、今年初めて「東京真田町の会」に参加させて頂きました。有意義な時間を人生の先輩の皆様と過ごすことができたことに感謝しております。

多くの方から、よく「真田の傍陽の出身ですか」と聞かれます。「その通りです」。



「傍陽」は父親の出身地であり、私にとっても思い出深い地でもあります。

幼少時代、当時、家族で小諸市に住んでいた私は、よく父の実家に預けられることがありました。実家は傍陽といっても、穴沢、三島平を抜け、山の麓の大倉という場所にあります。

祖母に手を引かれ、大倉の家から徒歩で下り坂を、ひたすら降りていく、三島平までは川と法面の間を通る道が一本でした（夜はさすがに歩くことは勇気がいります。平成22

年8月の豪雨災害では土砂崩落により、道路は寸断され、一時不通になりました）、歩いて歩いて、傍陽駅までやってきて、傍陽線に乗り、今度は電車に揺られながら、上田まで向かう。上田城のお堀下の駅（停車場）で電車を降りて、駅から道路に出て海野町の百貨店『ほていや』に向かい、お買い物をする。

当時、上田でお買い物をするということは、華やかな『おまち』に行くことを意味しています。『おまち』は幼心にも気持ちが高ぶりました。百貨店にはエレベーターやエスカレーターはもちろん、最上階にはレストラン、屋上には遊園地。建物から見える屋上の観覧車は憧れでした。祖母との思い出は、なぜか「お買い物」に連れて行ってもらった記憶ばかりです。

時は流れて、今は傍陽まで塩田平から自動車を走らせて約20分で到着します。

実家以外にも、様々な行事で真田に行く機会が増えました。

真田の「赤備え」にちなんだ入口が目を引く、真田地域自治センター（旧役場）の横に新築された真田図書館は、地元地域の方々の思いが実り完成いたしました。昨年、若手議員の会（東信地方の会派を超えた若手議員の勉強会）で伺った真田中学校の給食。地産地消を实践され、学校の備品庫には、自家製の味噌蔵まである。こちらは県内ばかりか、全国の先進事例となっています。また、

産業活性・雇用促進特別委員会の一員として、真田町商工会の皆様と菅平高原のホテルで懇談をさせて頂いたことでもあります。その会場は忘れもしません10年前に私共夫婦が結婚式を挙げた思い出の場所でもあります。

結びに、広くなった上田市ですが、上田市を全国ブランドにしてきたのは、まさに「真田」という名前です。全国には多くの真田ファンがいっぱいいます。

「東京真田町の会」の故郷への誇りと思いに對して敬意を表すとともに、皆様の益々のご健勝をお祈りしております。

## 元氣な故郷で

### あるように

上田市議会議員

古市 順子

東京真田町の会の皆様には、お元氣でお過ごしのことと思います。5月の総会の折は大変お世話になりました。今年も楽しい一時を過ごさせていただきました。真田町の秋も深まり、朝夕は暖房が必要の頃となりました。りんごの主力品種である「ふじ」も、もうすぐ収穫の時期を迎えます。りんごはご存知のとおり、生産者が1年中手をかけて大切

に栽培されていますので、感謝して  
 いただきたいものです。

11月から12月にかけて、信州  
 の風物詩である野沢菜の漬け込み  
 が多くの家庭で行われます。真田町  
 では、竹室と下郷沢の2ヶ所で野  
 菜の摘み取り販売が行われ、直売所  
 の「新鮮市」では、東で販売されま  
 す。私も竹室活性化組合のメンバ  
 ーで、毎年の「野沢菜まつり」のスタ  
 ップです。朝早くから大勢の方が野  
 沢菜の摘み取りに来られます。豚汁  
 や漬物、りんごなどのサービスをし  
 て、漬物情報など交流もにぎやかで  
 す。今年は12月1日、2日の予定  
 です。



このように豊かな自然に恵まれ  
 たふるさとですが、少子高齢化が進  
 んでいます。野沢菜まつりも以前は  
 長の大日向や傍陽の三島平でも行  
 われていましたが、人手不足で中止  
 されてしまいました。小学校の児童  
 数は23年度で、長115名、傍陽  
 114名、本原297名、菅平52  
 名です。自治会によっては小学生が  
 一人もいない所がいくつかあるよ  
 うです。

長引く不況が影を落とすしていま  
 すが、若い世代が暮らしやすい地域  
 づくりを皆が知恵を出し合っ  
 ていかなければと思います。子育て  
 支援や新規就農者支援、女性や若者  
 の意見が反映できる風通しのよい  
 地域づくりが必要だと思えます。

上田市議会では、昨年11月に続  
 き今年も10月に「議会報告&意見  
 交換会」を市内9ヶ所で行いまし  
 た。議員が3班に分かれて、資料づ  
 くりから説明、運営を自分たちで行  
 いました。真田地域では、地域公共  
 交通問題、遊休荒廃地解消や後継者  
 支援など農業問題、本原地域の交通  
 事故増加に対する要望などご意見  
 が出されました。他の地域では、空  
 家・空き地対策、消防団の団員確保  
 など出されたそうです。いただいた  
 ご意見・ご要望は整理をして市長部  
 局に伝えたり、議会としても各委員  
 会で調査・研究をしていきます。

10月28日には第11回の「真田  
 幸村ロマンウォーク」が行われ、真  
 田3代発祥の郷コース22キロを  
 大勢の方が歩かれました。会員の皆  
 さんにもご協力をいただいた真田  
 幸村の「大河ドラマの実現は遠  
 のきでしたが、真田氏の人気は高  
 く、観光客の受け入れ整備がハー  
 ド・ソフト両面で必要です。  
 会員の皆さんにとつては懐かし  
 いふるさと、私たち住む者にとつて  
 も大切なふるさとが元気であるよ  
 うに、皆で力を合わせていかなけれ  
 ばと思えます。

最後になりましたが、会員の皆様  
 にはますますお元気で、ご活躍され  
 ますよう心からお祈り申しあげま  
 す。

## 東京真田町の会 の総会に出席して

上田市議会議員

三井 和哉



5月20日に晴れやかに開催さ  
 れました東京真田町の会総会の際  
 には、一年ぶりにお会いした皆様に  
 笑顔をいただいたこと、また親しく  
 お話させていただいたことに、まず  
 感謝申し上げます。

懇親会の席でも話題になりました  
 た、「日本一の兵 真田幸村公」の  
 大河ドラマ実現は、残念ながらなり  
 ませんでしたが、「ゆきむら夢工房」  
 に地域のランドマークとなる大き  
 な看板を設置したり、菅平の入口  
 (ダム上部)に背の高い歓迎塔を設  
 置するなど、真田町としては観光客  
 の更なる誘致と、来られた方に心地

よく過ごしていただけるよう努力  
 しております。  
 テレビといえば、近頃取り上げら  
 れ、話題になるのが「無縁社会」と  
 いう言葉です。

上田市では特に高齢者の孤立を  
 防ぐため、「災害時住民支え合いマ  
 ップ」作りを進めています。

これは、独り暮らしの高齢者とし  
 の支援をする近所の人をあらかじめ  
 決めておき、避難勧告が出るよう  
 な災害が起こった場合、避難のお手  
 伝いをする、というものです。が、  
 むしろ独居高齢者の日常の見守り  
 や声掛けに主眼が置かれている事  
 業といえます。

真田町では平成23年度末で3  
 6自治会中、12の自治会で稼動し  
 ており、「無縁社会」とは無縁な真  
 田町になるよう、本年度もいくつも  
 の自治会が導入に向けて検討を重  
 ねています。

さて、真田町へ来られて夜外に出  
 てみると、防犯灯がぼんやりした色  
 の蛍光灯から、はっきりした白色の  
 LED灯に変わっていることに気  
 づかれるでしょう。

福島第一原発の事故以来、エネル  
 ギーの生産・消費の有り方が問われ  
 ています。

上田市ではエネルギー消費を減  
 らすため、昨年から5年間で、市内  
 の防犯灯をすべてLED灯にする  
 工事を進めています。真田町では1  
 648基ある防犯灯を、昨年に引き  
 続き本年度は330基交換します。

また、エネルギーの地産を目指して、染屋浄水場の配水を利用して小水力発電をする計画もあります。とりとめのないことを書きましたが、字数が尽きてきました。

またお会いできる日を楽しみにしつつ、「東京真田町の会」の皆様は益々のご健勝とご活躍をご祈念いたします。

## 日本ダボスに寄せて

上田市議会事務局長

小山 晃



過日は、東京真田町の会総会にお招きいただきありがとうございます。故郷を離れて東京などの賑やかな都会に暮らしていると、歳を取るほど故郷を思い出し同郷の方々との懇談が楽しみになるのではないのでしょうか。私も60歳近くなつて来ますと同級会やOB会が楽しみとなり、先日も大学のテニス部OB会があり、同期2人に36年ぶりに会いましたが、昨日別れた様に直ぐ打ち解けて懐かしく話に花が咲きました。

さて、私が日本ダボスを始めて見たのは平成9年の2月のこと、現在大庭にお住まいの三井芳郎さんから送って頂いた平成8年の12月発行のNo.9号でした。当時私は観光課に所属しており、有楽町の東京国際ホールで毎年開催されている国際ミーティング・エキスポの上田の展示ブースに三井さんが訪れ、大庭出身の私の母をご存じで親しくお話をいただいた縁でした。この時の日本ダボスの表紙は上信越自動車道・上田ローマン橋で、平成10年の長野オリンピック開催を前に同年11月に開通したものです。会報の記事には叔父の内海宏光さんが「おらが蕎麦」と題して子供のころの手打ち蕎麦の思い出を真田弁で書いてありました。

私も子供の頃は、母に連れられて上田駅から東北線の電車に乗って伊勢山のトンネルと川久保橋の鉄橋を渡り、終点の傍陽駅の前でまた鉄橋を渡り、遠くの世界に行くような気がしたものです。当時の母の実家は大庭でも1番くらい古く、大黒柱を中心に8畳から12畳の畳の間が田の字に4つあり、障子戸1つの冬は寒い家でした。途中水車小屋があり、小ぶりの水車が回っていました。駅の近くに採石の集荷所があるとのこと、ろう石という柔らかい地面に白墨で書けるような石を貰うのが楽しみでした。行き帰りに、駅まで家の人が付いてくれ、村の人も声を掛けてくれるなど、自分

の家の浦野地区より人情とつき合いが密な山里であったと思います。もう50年も前のことです。

現在に戻りまして、この4月から前任の片山局長の後を受けて議会事務局長を務めております。議会の仕事は年4回の定例会の運営をはじめ、4つの常任委員会及び2つの特別委員会の運営また、昨年からはまった市内9か所での議会報告会などの事務が中心となっております。議会機能強化特別委員会では、議会が提出する議会基本条例の素案作成を進めており、来々平成25年度末までの条例化を目標に、先進都市への調査や議員間での議論などが活発に行われております。また、議会報告会は準備から当日の運営まで全て議員が行う一大事業で、議会の一年間の活動を市民にお知らせして意見交換を行う場であり、開かれた議会を目指す議会改革の取り組みの一つであります。東京真田町の会の皆さまにも内容もお知らせできればと思います。皆様には、これからも故郷の上田市ことを忘れずに様々な活動を通じて交流を頂ければ幸いです。

## 古い着物

副会長 鈴木 邦子

(横尾出身)

お盆に入ると、道路が混雑するの

で一週間程早く実家に行き、お墓参りをした。母が亡くなって既に30年、父が亡くなって23年たった、もうそんなことになるのだ……

近頃は、あまり思い出すことも、また夢を見ることも殆ど無くなって来た、しかし不思議なことに、お彼岸が近づくとつれ何故か亡くなつてしまつた人、親、兄弟の夢を見ることが多いのである。墓前に花やお線香を手向け、手を合わせると、何時ものことではあるが、さまざまの思いが巡ってくる。



以前は、お寺の裏山にあり、お墓参りをするのも一寸した山登りをする様であった、現在は実家の兄達が六地藏さんの手前に移してくれたので、お参りするのにも楽になった。大きな新しい石塔と、父が建てた古い石塔も並べられている。

ウン十年前その古い方は、更に古い墓を父が掘り起し(合掌)新しく建てたものであるが、其の手伝いをした時のことを思い出した。当時は土葬だったので、曾祖父のお骨は土に帰り殆ど形は残ってはいなかったが、それでも父は「これは爺様

のか？これは、祖母様のか？」と言  
いながら、それらしきものを大切そ  
うに拾い上げていた。骨が丈夫だっ  
たのか、祖父母のものは可なりちや  
んとした形で残っていた、特に祖母  
のものは縞柄の着物の一部まで残  
っていた。「これは親父の頭だ、足  
だ！これはお袋の頭だ（きれいだっ  
た）手、足等と言いながら、愛おし  
そうに、そして大切に手に取り並べ  
ていた父の姿を思い出した。子供の  
頃は、よく硬いゲンコツが飛んでき  
て「とつてもおっかなかった」父で  
あったが、その時の父の顔がまるで  
仏様の様にみえたのを覚えている。  
きつとその作業をしながら父もこ  
先祖に想いを馳せ懐かしさを感じ  
ていたのでしょうか。

そんなことを思いながら帰って  
きて、姉の手作りのお昼をご馳走に  
なった後、父の着物や羽織、母の留  
袖や帯等を出してくれた。「何か作  
れると思うから」とのことでしたの  
で、色々貰って来た。あくる日、早  
速、古いタンスの匂いを懐かしく感  
じながら一つ一つ広げてみた。少  
しだけ手を加えたら使える物と、分  
解するものと区分けて、父の羽織  
が丁度二枚、少し手を加えるだけ  
で着られそうなので、兄と弟に袖なし  
の半纏に仕立て直して送った。  
父は着物が好きで良く着ていた  
姿を覚えていたが、紋付の着物や羽  
織を着ている姿は写真で見た記憶  
しかない、夏の絹とお召の羽織だが、  
何れも大きな紋がついている、母は

良く仕立物をしていた、おそらくこ  
れらも母が縫ったのだと思い、順番  
に解き始めて感銘した。あまりにも  
丁寧で、綺麗に仕立ててあり解いて  
しまうのがもったいない程だった。  
生地はしつかりしているのだが、縫  
い糸は絹で有るにも関わらず大分  
もろくなっていた。

一気に3枚の羽織を分解し、何に  
するにしても、紋を消さないは無駄  
が出るため、染めて貰おうと全部、  
反物状態に継ぎ合わせた。そのうち  
洋服でも作って着ようかと思う。  
次に母の丸帯であるが、解き始めた  
ところミシン縫いかとよく見たら、  
手縫いであった、一寸真似て縫って  
みたが、可なりの技術だとおもった。  
更に胸を打った事であるが、帯の芯  
だった、洗い張りしてあったが、し  
みもあり又穴のあいたところに継  
ぎを当ててあり、たぶん自分たちの  
古い着物の裏地であろうものだっ  
た。この様にして慎ましく工夫して、  
私たち大勢を育ててくれたのだと、  
一層無駄にしては申し訳ないと感  
じた。

思い起こせば、母がよく庭一面に  
布を張り伸子張りをしていた、又張  
り板に布海苔をつけた布を丁寧  
に手で伸ばしながら張っている姿を  
みたものだった。その帯は化繊であ  
るが、絵柄が「御所錦」で縁起が良  
い、「こめんね」と言いながら座布  
団にした。なかなか肌触りが良い、  
もう一本の帯であるがやはり何回  
も染め直しては作り直した物のよ

うであった為、考えた末、柄も何と  
か使えそうなので「文化帯」に仕立  
て直した。

こんなことをしながら、ふと思っ  
たのだが、母の年までたったの5年  
しかない、父の年までは15年！何  
とか頑張って、リフォームして使っ  
てみようかと、複雑な思いで一人苦  
笑した。

自分がまだ若かった頃、母が針仕  
事をしているとき、針に糸を通して  
と頼まれ何本かの針に糸を通して  
針受けに刺してやった時のことを  
思い出した。今自分が同じようにな  
り特に絹針に糸を通す時等は、四苦  
八苦しているが、まだなんとか古い  
物を大事にと思う気持ち強いので、  
この夏に解いておいた母の着物を、  
自分で着ようと縫い直している。  
縫物をしながら、思ったのだが、子  
供たちは、おそらく出来ないだろう  
し、又着ることもないでしょう。

そんなことを思いながら、自分の  
着物も何とかしておかないと、ただ  
の無用の長物になってしまうだろ  
う。着てほしいと思いつながら、娘た  
ちは体格が良いため、仕立てる時に  
自分の寸法より多少大きめに作っ  
ては置いたのだが、など等と考える  
ことや、成すべきことの多いこと  
に気付く、まだまだ頑張らなければ  
と、自身に「檄」を飛ばしつつも、  
さあ果たして何処までできるのや  
らと、少しだけ弱気にもなった時間  
でした。平成24年の秋に思う。

## ベトナム訪問記

理事 花岡 孝雄  
(横尾出身)



今回、社用でベトナムを訪問した  
ので、見て・聞いて・感じたことを  
お話しします。

まず、ベトナムの女性は実に良く  
働く。例えば、結婚した場合、子育  
てや夫の両親・兄弟の面倒を見るこ  
とは当然で、更に女性が働いて家計  
をやり繰している。今の日本の若い  
女性では考えられない。何故このよ  
うになったのか、いろいろ聞いて見  
たところ、ベトナムの歴史が、この  
様な習慣を作った気がします。ベト  
ナムは、外国との戦争に明け暮れし  
て来た。一八四七年のフランスの侵  
略から始まり、フランスからの独立  
戦争、独立戦争終結と同時に北ベト  
ナムと南ベトナムに分断され、南ベ  
トナムを支援する米国とのベトナム  
戦争、一九七五年サイゴン陥落に  
よるベトナム戦争終結、その後カン  
ボジアや中国との戦争と一九九二  
年まで続いた。

戦争になると、男性は出兵し、家を守るのは自ずと女性の仕事となる。多くの男性が戦死したり、大怪我をしてしまった。無事家に帰るこの出来た男性は、家族や親戚一同から歓迎され感謝され、大切にされるようになった。こうしたことが繰返されるうちに、女性は良く働き一家を守る風習が自然と出来上がったのである。

現に、米国との戦いでベトコンとして出兵した男性が、取り引き先で、国営企業の副社長として働いている。この副社長は非常に穏やかでやさしく、ベトコンとして戦ったとは思えない人柄です。因に、社長と残り三人の副社長は女性です。女性が良く働く例です。

ベトナムには、泥棒が非常に多いとのこと。市内は勿論、郊外に行っても、門扉は頑丈で、簡単に人が乗り越えられない造りになっているし、二階三階の窓には網が張られており、外部からの侵入を防いでいる。それでも泥棒に合ってしまう。盗まれた物を販売する泥棒市場が成り立っている状況である。因に靴やスリッパの一足でなく、片方でも盗まれてしまう。盗まれた後、泥棒市場へ行くと売っているので、買い戻して来るとのことである。

ベトナムの交通手段はバイクです。朝夕の通勤時間になると、車道一杯に溢れんばかりのバイクです。バイクの二〜三人乗りは当たり前、豚や農産物など荷台にはあらゆる物が積

れて、プープとクラクションを鳴らし、我れ先と進んで行きます。交通规则やモラルがあつたものではない。

車に乗っていても、後からピーピー・プープとクラクションの音で疲れてしまう。バイクや車で真先に故障するのは、クラクションとのこと、納得する。因にベトナムでは、日本人は運転は出来ないと言われる。十年以上滞在している方も、危険で一度も運転したことが無いとのことでした。

バイクや車が、道路を我が者顔で占領しているので、道路を横断するのが実に怖い。信号もほとんど整備されていない。最初にベトナムを訪問した時にまず注意されたのが、道路の横断方法であった。道路を横断しはじめたら、どんなにバイクや車が来ようと、歩いているペースを絶対に変えないこと。立ち止ったり、車を避けようと戻ったりすると、車に撥ねられてしまう。こう注意を受けて、最初は現地の人に付いて、恐る々横断する。慣れても、狭い道路は出来ても、大通りなどは怖くて出来ない。

次に、ベトナム料理は、あまりクセが無く、日本人向きです。最もポピュラーな食物は、「フォー」です。米を原料にした麺です。これに牛肉や鶏肉をのせて、スープをかけて食べます。味付けに香草を加えて食べる。又、香草も豊富で、魚や肉の料理などにも合せて食す。初めての人

でも、美味しく食べられます。ただ、お断りした料理には、犬・猫の料理です。現地の若い女性に聞いて見たら、結構美味しいと言っていました。「花岡さん、犬や猫がウロウロ歩いている姿を見ましたか？」との質問に、そう言えば、全然見ないですねと答えた。犬や猫がウロウロ歩いていると、すぐに捕獲され食用のため売られてしまうとのこと。従って、各家庭で飼っている猫も、外に出ないように首輪をして屋内で飼育しているそうです。

ベトナムで美味しい物の一つに、果物があります。種類が豊富で、色鮮やかなトロピカルフルーツを満喫出来ます。街や村はずれの店で売られている果物の値段も、驚く程安く満足出来ます。

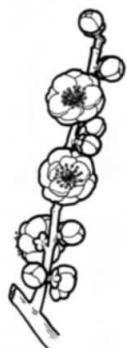
インフラ整備が遅れています。その例として、鉄道についてお話をします。日本と違って、未だ整備が大幅に遅れています。首都ハノイ駅からの路線も少なく、かつ、列車の運行本数も日に何本かと数える程です。従って、ハノイの街の中の線路は、生活の一部に組み込まれている感じ。列車の通る際まで建物物が迫っているし、列車の通らない時間には、線路に物を干したり、テーブルを置いて飲み食いしたりして、自分の軒下代りに使っている。何時に列車が通過するか分からないので、列車に撥ねられる事故が多いとのこと。道路の整備もこれからです。少し田舎に入ると、舗装されて

いる道路でも、埃りが舞い上がり、真白で前が良く見えなくなる状況です。日本から多くの企業が進出して来ておりますが、経済発展の為に、更なるインフラ整備が必要と思われまます。

ベトナムと言えば、「ハロン湾」が有名です。ハノイから車で3時間、世界遺産で知られています。カットバ島のほか大小三〇〇もの奇岩や島々が存在しています。中国がベトナムを攻めて来た時に、竜の親子が現れ敵を破り、口から吐き出した寶石が、島々になったと言われています。ハロン湾観光は、クルージングで満喫出来ます。湾内の奇岩や鍾乳洞巡りをはじめ、水上生活者の状況や、彼らから仕入れた魚を船の中で料理して美しく頂くなどベトナムに行かれたら、是非ハロン湾まで足を伸ばして下さい。訪れる価値は十分あります。

最後に、ベトナムの女性について、少し触れておきます。米を主食とし、魚・野菜・果物を主とする食生活のせい、女性は皆さんスタイルが良い。太った女性を見かけることは、ほとんどない。

民族衣装であるアオザイが実に良く似合う。何時までもアオザイが似合う女性であって欲しいと願って筆を置きます。



# 真田町郷土史研究会 会に参加しよう

大庭出身 内海 宏光



私は、高校を卒業して東京方面に就職。定年十一年(43年間)を関東で過ごし、平成16年真田町傍陽に住居を構えた。最初は、ゆっくりの田舎暮らし(晴耕雨読・花鳥風月を楽しむ)をと考えていたが何か物足りなさを覚えるようになってきた。

それは我が郷土の歴史について全く疎いと言うことに気付いたからである。考えて見るに、郷土で過ごした18年間に郷土の歴史について興味があったかは定かでない。現在わが町の由緒ある史跡を訪ねると、立て看板等があり、それぞれに説明がなされている。当時(昭和30年代)はそのようなものは無かったと思われる。もし、設置されていたとしても板に墨書きされた内容も長年の風雪等により読むことも出来ないような代物であったような記憶がある?史跡等については、村の老人から聞く事が多かった

ように思える?現在、町の史跡を訪ねると立派な説明板が設置されている。近年、人々の生活も安定し、郷土の歴史を学ぶと言う雰囲気醸成されてきた事ではないだろうか?私が住んでいる裏の山は、「洗馬城」との事。登り道及び頂上も整備され、頂上には洗馬城に関わる歴史的な内容が説明板に記述されており洗馬城の謂れがひと目で分かる。実に素晴らしい。私が小学校の時、この山の頂上は平らに整備などされていなかった。休み時間に頂上に登りターザンごっこをした記憶があるが、それ以上のものは皆無であった。(山城であったことなど聞いたことは無かった。)同じく「根小屋城」「金縄山」(お花見、カエル合戦、りんご祭り、枝垂れの松、馬頭観世音ぐらゐは記憶にあるが、歴史について聞いた記憶は無い。)

本原の「お屋敷」も小学校の時、遠足に行ったことは覚えていたが、そこが歴史上有名な史跡であるなどの説明を聞いた記憶が無い。横尾城(尾引城)、松尾城、本城しかり昭和30年代、真田町の一般住民に郷土の歴史を学ぶなど生活に余裕のあったものが何人いたか?一部教育に携わる者等の文化人は別としても。在京中、私が郷土の歴史に触れたのは、作家池波正太郎さんの小説「真田太平記」と、それがテレビ化された事である。私は「真田太平記」18巻は三回も読み直し在庫している。また、当時テレビ放映は必

ず見た。

郷土の英傑の活躍と知っている地名が小説に記述されていると、ただただ心を躍らせ寝ても故郷の景色が思い出され興奮し、眠りは浅かった。在京中は仕事・生活に追われる日々であったが、その中で郷土の歴史が読み物等に掲載されると、むさぼる様に読んだものである。私の中にある「郷土愛」がそうさせたのであったのか?

こちら(真田)に移り住み、郷土史を学べるような会等は無いだろうか?と村の先輩に尋ねたところ、「真田町郷土史研究会」を紹介され入会した。この会の創立は昭和57年2月であり発足当時の会のメンバーを見ると懐かしい名前を見出す事ができた。また、会が以前に現地研修された実績など拝見すると、参加者を羨ましく思えた。

この会も今年(平成24年)が発足30周年に当たると、「真田町郷土史研究会創立30年のあゆみ」が発刊された。内容を見ると年2回の「史跡探求」と称して我が郷土の歴史に関係ある史跡を現地視察研修・古文書を読む会・真田町誌を読む会などで研鑽し、著名な先生を講師として招き講演会・拓本講習会・石造文化財調査研修会など実に多彩な活動をなされた歴史研究会である。現在の会員数は80名を超えている。会の創立30周年を記念して今回、現地調査研修会は、一回目「真田幸村の大坂の陣をゆく」大

阪城及びその近辺の幸村公に関する史跡探訪。(大阪一泊)、二回目「真田信之ゆかりの地」(松代の史跡探訪)そして同じく記念行事の一つ「郷土の調査と記録」として第一集「真田町近辺の慣習的行事」・第二集「真田町近辺の食生活」・第三集「真田町近辺の住居と生活の様子」・第四集「真田町近辺の衣服の様子」・第五集「真田町近辺の子供の遊び」を会員から夫々の編集部員を募り限られた時間の中で編集部員は、資料を持ち寄り企画・編集・校正など積極的に作業に参加し素晴らしい記録を完成させた。編集部員は中年の方々が多数を占めたが、一つの目標に向かい頑張つて完成させたことは「努力賞」に値する。「BRAVO ! M E C I B E A U C O U P !」(ブラボー!メルシ―ボクー!)東京真田町の会の会員の皆様も機会があったら帰郷の際にでも見て頂きたい。ワンセット真田町図書館にありやすから。おらが会では、これからも新しい企画の歴史探訪現地研修を計画するわい!

現在、東京(真田)間は新幹線を利用すれば3時間とはかからない。東京真田町の会の会員の皆様でも一日前にふるさとの実家にでも厄介になれば、おらが郷土史研究会の催しに参加し、その日のうちに帰れるわい!現地視察のバスの中「ふるさとの訛り懐かしいおらが方言」いいもんだで、同級生や、昔の初

恋のお姉さん、いやあの頃の聖処女に会えるかも？

最後に、おらが町の誇りであらせらる真田氏系図と、真田氏三代を称える漢詩を紹介いたします。(33頁参照)

尚、現在真田町郷土史研究会の事務局は次の方々です。会の事についてなにかお問い合わせがありましたら電話をお願いします。

・旧本原村の合葉 詔次様  
電話 0268-7213259  
・旧長村の宮下 良雄様  
電話 0268-7212166

## 放射性廃棄物の 処理について

理事 古市 礼子  
(竹室出身)



東日本大震災に続く原子力発電所の事故を契機に、エネルギーの事、原子力発電の事を考える人がとて

も多くなったと思います。

メディアでも、原子力発電所の構造、歴史、安全性、などあらゆる角度から報道が増えました。今後、原子力発電所をどのように考えるのか？議論が起こっていますね。

今回は、固い話で恐縮ですが私がテレビ番組制作などでやって来た大切なテーマのひとつについてお話ししたいと思います。

私は、2000年にチエルノブイリの被災者に関するドキュメンタリー番組を制作したことを契機に、それ以降、日本とヨーロッパの各国で、原子力を含むエネルギーに関する取材を続けてきました。

まず、放射線とは何か？人の身体にどのような影響があるのか？

それから、原子力発電とはどのような技術なのか。

他にどういった、エネルギーの道があるのか。

そういった取材の中で、特に皆さんと話してみたいと思った事は、放射性廃棄物の処理・処分に関することでした。

原子力発電をすると必ず出てくる、核のゴミ、つまり、放射性廃棄物ですが、日本では、最終的に処分する場所や方法は決まっておらず、貯まっています。

単純に考えて、そうした状態で原子力発電をつづけている、又、新たに建設もしているということは、普通の事ではないですよ。問題を残しています。

では、最終処分場に関する準備は他の国々ではどうしているのでしょうか？驚いてしまうのですが、最終処分場の問題は、実は、どこの国でも解決していません。

ただ、道筋を見出しつつある二つの国を取材しました。

その一つ、スウェーデンは地震がないと言われている国です。最終処分場の実験施設が地下450メートル、岩盤を深く掘った所にあります。地層処分という方法で、安全性に関する様々な実験をしていて、日本のチームもそこに参加しています。

そして、その方法で処分するため、実際の候補地を決めているところでした。つまり、まだ処分場はないけれども、いくつかの地域が手を上げ、そこで地盤の調査を進めるという段階でした。(2004年時点)フィンランドでは世界で初めて“オンカロ”という最終処分場を建設中です。やはり、地層処分の方法で、原子力発電所のすぐ近くにありました。

ここに処分して、満杯になったら埋め立て、10万年経過した時にこの場所に放射性廃棄物が埋まっているということの後世の人が判るためにはどうしたらよいか？という事が話し合われたそうです。

両国でも日本と同じように、使用済み核燃料が中間貯蔵施設の水のプールの中に、一時的に貯蔵されています。スウェーデンのSKBとい

う会社で特別に施設に入れてもらい撮影しましたが、ほとんど柵もない水の中にゆらゆら使用済みの燃料棒が透けて見え、カメラマンも私も、足がすくむような恐ろしい思いを致しました。

今後、原子力発電をどのように考えるのか、安全性を強化しながら続けて行くのか、ある時期からの脱原発を目指すのか、そのどちらにしてもすでに大量の放射性廃棄物が国内にある、という事実は変わりません。本当に深い議論をしてゆかなければならないのではないのでしょうか。(添付写真：37頁参照)

## 運が良いのか 悪いのか

理事 堀内 幸  
(下横道出身)



皆さん如何お過ごしですか？前回の「古稀雑感」の投稿より、二年前りと成りました。

第一話 飼い犬に手ならぬ足を

咬まれた事

家にはミニチュアダックスフンドの牡、体重八キロの太り気味の犬がいます、名前はチビ。十二年前職場から拾得物として飼い主が判明するまでと言う事で預かったのが飼育の始まりです。その頃は、生後一年に満たない元気な子犬でした。拾得物の係員から「この犬は少し癖がありますから気を付けて下さい」と指示を受けはしましたが、自家用車のドアを開ければ自ら助手席に乗り込むので「飼い主は車に乗せて移動していたな」と考えながら家に連れ帰り飼い始めたのです。三日目の朝、廊下に寝ていた犬を「可愛い」と言つて妻が頭を撫でた時に突然手を咬まれてしまいました。これによって「癖がありますから・・・」の意味が良く判りました。

我が家では、この犬が六匹目。犬の飼育には慣れていたものですが、そのうち家族の一員のようになるものと思つていました。しかし、その後も何度か妻が咬まれるので、犬の調教師に相談しました。「生まれつきですね。こういう犬は訓練しても無理です」との事。警察にも交換の相談をしました。「飼い主が現れないので、市の畜犬センターに引き渡す事になります。そこで殺処分され、動物園の猛獣の餌になりま」と聞かされました。一か月余り経過し少し愛情もあつたのと、近隣二件が連続して空き巣に入られたのに我が家は無事で少しは役立つ

ていると思ひ仕方なく飼育を継続。他人に危害を加えないよう柵周りよりも内側に二重に柵を作りました。そして、散歩も二人で行くように気を遣つていました。

妻は十七回咬まれ、通院した事もありました。私も三回咬まれ、夫婦で計二十回。ここ五年程は平穩に経過していました。昨年五月二十一日、OB会で私は「会の功労者」として県の総会で晴れの表彰を受けてる事になっていました。その前日の夜晩酌を済ませ、十時半頃何時ものように犬を庭に出しオシッコをさせてから寝ようとしていました。玄関のドアを開けるためサンダルを履こうとした時です。眠つていた犬の鼻先に私の左足が接近しました。その瞬間、犬は吃驚して咬みつきました。私は左足の小指がもぎ取られたかと思うほどの痛みを感じ、尻もちをついてしまいました。私の左の足先には、犬がぶら下がっていたのです。晩酌のアルコールを含んだ血液が多量に垂れていました。当然の事ながら、翌日の表彰式は欠席。病院通いに変つてしまいました。幸い抗生物質のお蔭で、翌々日の東京真田町の会の総会には、何もなかったような顔をして出席出来ました。会の終了を待つて家に直帰したのは、そんな事があったからです。

第二話 青い畳ならぬ古い畳の上で泣いた事

本年五月二十七日の日曜日、高校

時代の同窓会が上山田温泉であり、これに出席すべく級友とも「東京駅から何時の新幹線で」等と事前に連絡を取り合つたりもしました。事が起こつたのは前日の午後六時半頃。椅子を踏み台にして四畳半の天袋からスーツケースを取り出そうとして、勢い余つて椅子から転がり落ちてしまったのです。椅子の背当てに足が挟まり、椅子が足にぶら下がっていました。畳に臀部を強打し、背部には激痛が走り、起き上がる事が出来ません。大声で妻を呼びました。運悪く土曜日の夕方であり、翌日は日曜日。結局、自宅で安静に寝ている事となりました。当然の事に、同窓会はドタキャン。故郷の幹事さんには大変な迷惑を掛けてしまいました。

何日か通院しましたがなかなか良くならず、その後のレントゲンの結果第二胸椎圧迫骨折と判明。大きなコルセットを余儀なくされ、介護認定を受け、介護ベッドを使って何とか過ごしています。

私は四十歳までは柔道の試合に出ていました。それが七十二歳の今では受け身も出来ず、昭和の歌姫・美空ひばりさんの「柔(やわら)の歌詞 青い畳の上で泣け」とは大違い、自宅の古い畳の上で泣くはめになつてしまいました。

第三話 映画撮影の思い出と最近の撮影の事

話は五十年前に戻ります。田宮二

郎主演・藤由紀子共演の映画「黒の暴走」の撮影がありました。田宮二郎さんが白バイの警察官役。神奈川県長者ヶ崎海岸通りで白バイに乗り駐車中の車両に職務質問する場面の撮影に、協力する事になりました。

若い隊員が良いという上司の指示で私が選ばれ、何時もの勤務中の服装で現場に行きました。「駐車場に止まっている車両に気付き五メートル位通り過ぎて転回し、その車に近寄り運転席の藤由紀子さんに話しかけて下さい。それだけです」との打ち合わせを係員から受けました。このシーンの撮影は一回でパスしましたが、藤由紀子さんが運転席の窓を開け大きな瞳で見つめられた瞬間、私は何を話したら良いのか頭の中が真っ白になつてしまいました。時間的には五分程度でした。映画に映つたのは道路上の白バイの転回姿と藤由紀子さんに話しかける私の後ろ姿だけです。当然の事ながら誰が見ても、本人の私が見てさえも田宮二郎さんとしか判りませんでした。

今年の五月の末からは、毎月撮影が入っています。九月の二十六日が最終撮影の予定ですが・・・と言つても背骨のレントゲン撮影です。これで、これでは全く笑い話にも成りません。

結びに替えて

我が家の飼い犬が他人を咬んで

しまったり、椅子から落ちた時に狭い部屋の出窓の枠に頭を打っていたら等と考えると、まだまだ運が良かったんだと思わずにはいられません。

その後の犬ですか。それが一度も病気をした事も無く、私とほぼ同年齢ですが元気です。犬に負けないように、猛暑と痛みにも負けないように頑張っている今日この頃です。十月末には東京真田町の会の故郷訪問があります。私は旅行担当幹事です。今度何かあつては、すつかり顰蹙をかってしまいそうです。とりわけ「前日は気を付けよう」と、今から自分に言い聞かせています。

## 親睦旅行会に

### 参加して

下横道出身 堀内 敏文



今年の東京真田町の会の親睦旅行会に、旅行会幹事の堀内 幸様に

誘われて初めて参加しました。45年間の会社勤めも今年で終わり、時間的に余裕が出てきたので、新しいことに視野を広げたい気持ちから古里を訪問する旅に思い切つて出かけることにしました。

10月28日

宿泊旅館の送迎バスで大宮駅西口を9時に出発し真田町に12時頃到着。その後は①ゆきむら夢工房でそば打ち体験とそばの昼食②新鮮市場真田で地元産の農産物の買物③真田中央公民館で信州六文銭太鼓15周年コンサート鑑賞④真田氏歴史館見学⑤大松農園でりんご狩り⑥鹿教湯温泉「鹿鳴荘」で宿泊。

10月29日

鹿教湯温泉を9時に出発して①塩田平の生島足島神社参拝②八日堂信濃国分寺資料館見学。佐久の「おぎのや」で峠の釜めしの昼食を取り、帰路について、4時頃大宮駅西口で解散。

次にこの旅行で思い出に残ったこと、感じたことについて触れてみることにします。

(1)信州真田六文銭太鼓の鑑賞会は「同保存会」と真田地域自治センターの皆様の協力と御厚意により、実行されたことに心より感謝しています。

初めは宮太鼓・縮太鼓・大太鼓の違った音色による「六文銭ばやし」

の演奏から開幕した。数台の太鼓の競演による勇壮な音色が腹の奥まで響き渡り、素晴らしいと感じました。

本日の演目は「組曲・真田の里」で弱小の地方豪族から武田二十四将の一人に数え上げられるまでになった真田の祖幸隆の活躍を表現するものとのことであった。

生憎、次の予定もあり最初の触りの30分程度の鑑賞となったことが心残りであった。参加した人も皆「素晴らしい」「すごい」の声を連発していました。

若い人達を中心に、古里の歴史を伝承するために真剣に一生懸命、頑張つて演奏する姿に心を打たれました。

(2)真田氏歴史館では語り部の常田軍三様から真田一族の系譜・お屋敷に伝わる三ツ頭獅子・軍旗に描かれている真田六文銭の由来等について懇切丁寧な説明をしてもらうことが出来ました。

「信玄の下で一度奪われた家勢を挽回した豪勇の将幸隆」、「知略で徳川の太軍を二度にわたり撃退した智謀の将昌幸」、「大阪夏の陣で家康に恐れられ、真田日本一の兵と言わしめた義勇の将幸村」これら真田三代の英雄を生んだ真田の郷の素晴らしさを改めて再認識しました。

説明を聞いていて、戦乱の時代に信濃の小豪族から身を起こし天下にその名を轟かせた時代を駆け抜けて行った真田一族の歴史が蘇

って来るようでした。

(3)信濃国分寺資料館の見学にあたっては学芸員の児玉様から信濃国分寺跡史跡公園のこと、展示物の発掘土器・蘇民将来のこと等について説明を受けることができて感謝しています。

昭和38年頃から発掘調査を開始し乱開発される前に5500平米の用地を買収して最初の国分寺跡を、国指定の史跡公園として整備されたものである。故郷の貴重な歴史遺産を大切に保存された当時の関係者に頭が下がる思いでした。お陰様で勅願により建立された1250余年前の国分寺の面影を偲ぶ事が出来ました。

展示物の中には菅平高原の唐沢B遺跡から出土された石器のように県宝に指定されているものがあること又、傍陽の三島神社で近頃発見された仏像は県宝に値する貴重なものであることを知ることができました。参加した方々も故郷の展示物を熱心に見学して思いをつのらせているようでした。

小学生の頃、父に連れられて八日堂縁日に来て、達磨と息災と繁栄を願う蘇民将来のお守りを買ひ、帰りに上田の街で親子井を生まれて初めて食べさせて貰った60年前のことが懐かしく思い出されました。最後に今回の旅行の全体的なまとめをして締めくくりにします。

初秋の紅葉が美しくなり始めた

時期に鹿教湯温泉の源流掛け流しの家族的な温泉宿で疲れを癒し、食べて、飲んで、カラオケで歌い、楽しい一時を過ごすことが出来て満足しました。古里を同じくする東京真田町の会の山口会長様を始め、多くの会員の皆様と交流して親睦を深める機会を持てたことも大変嬉しく感謝しています。古里を離れていても、年老いていても、自分の生まれ育った古里の素晴らしさを実感し、忘れないで強い愛着を持っていることを参加者の全員から感じ取れたような気がしました。

古里には時々帰省して、今は誰も住んでいない時代遅れの古家を管理していますが、今回のように古里の歴史や文化について、その道の専門家から説明をもらう機会はほとんどありませんでした。

この度、上田地方を代表する真田一族や、国分寺等の歴史遺産を見聞することを通して、改めて脈々と時が流れている古里の歴史の悠久さを感じました。

帰りの際、バスの車窓から四阿山、烏帽子、浅間山の雄大な秋の陽を浴びた山々を見ながら、心休まる良い旅行が出来たことに感謝しました。気分は秋晴れのように爽やかでした。

なお、今回の古里訪問に当たり、休日にも拘わらず、真田地域自治センター長高橋様、同振興課地域政策係林様、同センター職員の皆様からご支援とご協力を賜り、大変お世話

になりましたことに対し、心より厚く御礼申し上げます。

併せて楽しい旅行を企画して頂いた幹事の堀内様・金子様を始めご参加の皆様に御礼申し上げます

## 東京真田町の会の

### 旅行に参加して

顧問 中島 正江  
(戸沢出身)



この会の旅行も回を重ねる毎にいろいろな企画をして、会員の皆様に楽しんで頂けるかと担当理事も悩みながらの旅です。

大宮からバスで和やかに一路上田市へ；今回は特に真田町をもう一度重点に廻ってみよう、そしてお昼は自分達でそば打ちをして昼食にしよう、私の提案で、町のそば打ち道場へ。

大宮は定時出発したのですが、打ち合わせ不足か経路を遠廻りした(川越ICのはずが東松山ICか

ら高速道へ)上に雨に祟られて遅れ気味になり、途中でそば打ち開始を電話でお願いする始末に...

バス到着時には地域センター長さん始め次長さん・担当課長・係長・担当者のみなさんのお出迎えを頂き、お休みの日なにご迷惑をおかけしました。

そば打ちが終わっていましたが、切るところだけでもと云う事で鈴木邦子副会長が挑戦、最初はややためでしたが段々と調子が出てきたところで次の人、また次の男性へと；、そのうちに茹で上がってきました。特に私が頼んでおいたかき揚げ付きです。太く切られた部分も大変美味でした。

次は真田町文化会館で真田六文銭の太鼓演奏(一五周年記念公演)を観賞する、たしか小林会長の時、太鼓の会を作るのでと言う事で、東京真田町の会からも寄付をしたように思います；、とても素晴らしいう演奏でした。時間がなく最後まで観賞することができず残念でした。

次はお屋敷の真田歴史館で語りの常田さんから真田一族の説明を伺いました。何回も聞いたことがあります；が改めて凄いな(人)だっただけだなぁーと思いました。

続いて隣接のりんご園に移動してりんご狩り、試食組・りんご狩り専念・自家宛発送組と忙しいひとときでした。味は旬の「信濃スイーツ」がいちばんで、帰宅後にも追加して送ってもらいました。

このあとバスは一路、夕闇迫る鹿教湯温泉へ、お風呂に入り、幸せなひとときです。

次の日は、宿の若きジュニアの「また来てください」と言う可愛い声に見送られ、次の工程の生島足島神社へ、今回は特に念入りにお参り、柴田小夜子副会長さんのところも第二子が生まれる予定とか、私の娘も第二子が第三子になる予定です。双子なのです。無事な出産を祈るのみです。

続いて山口会長の発案で信濃国分寺の資料館見学へ、学芸員の解説の中の古墳時代の処で見たことのある写真が展示されているので、よく見ると、なんと今我が家でお米作りをしている稲倉の棚田の田んぼが撮られていました。

雨が降ってきたらあそこで雨宿りしようとか、道具の格納に利用しようとか話していたところが氷川古墳跡だと分かり、びっくりです。うすうすは耳にしていたのですが、まだ棚田にはほかにも色々ありますが、まだ棚田にはほかに色々とありそうなので今度の機会に改めて手を合わせることにします。

八日堂の思い出は小さい頃、母の出が林之郷でしたので、従兄弟達と少ない小遣いを持って、何分かつて歩いて行ったのかしらと、又会員の方も、私の母も笹井なのよ、えー井出先生いなかった？と聞き、その先は私の中学校の先生だったのよと、一とき八日堂の話で盛り上がり、お寺まで行きたかったのですが時

間がなく残念でした。  
真田町の課長さん係りの方、お土産にきのこの詰め合わせを国分寺まで持って来て下さり、大変有り難く頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

## 第二五回定期総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長 鈴木 邦子

(横尾出身)



こんな楽しい旅行ですので会員の皆さんが次回より多く参加されることをお待ちしております。  
夕食はおぎのやの釜飯、そしてきのこの味噌汁、田舎の漬物で旅の締めくくりでした。

年の総会のスナップ写真も並べられ、それぞれお持ちいただきました。

〔総会〕

司会 柴田 小夜子 副会長

〔山口会長挨拶の概要〕

5月20日アルカディア市谷5階・「穂高の間」において第25回総会、懇親会が開かれました。好天気に恵まれ、会員48名、上田市行政関係から3名、上田市議会から6名、東京上田会から1名、東京丸子会から1名、歌手1名他1名の方々に御出席賜りました。

全員で「信濃の国」を声高らかに斉唱し、再会の喜びを味わい、総会が始まりました。

会場には、会長が苦心された「日本ダボス」の表紙を拡大し、パネルにしたもの、24枚が飾られ、また昨

5 本日は大勢の方々に参加して下さり、また、上田市からは副市長様・議長様・議員の先生方・地域自治センター長様・東京上田会副会長様・今回始めてですが東京丸子会会長様にもご出席賜りました。後ほどお一人ずつご紹介させて頂きます。今回は25周年を迎え皆様の御支援とご指導のおかげと一同感謝しております。

この会は昭和63年に(傍陽・本原・長)が合併して真田町となつて八周年の記念事業の一環として開設され、第一回総会が上野の「池之

端文化センター」で開かれました。会員260名で真田町から65名の方が参加され大変賑やかでした。「ここにいます方で創始総会から参加されている方がいらしゃいますか? (3〜4名挙手) ありがとうございます。」

昨年来からNHKの大河ドラマ「日本一の兵真田幸村公」放映につき聞いていますが、幸村はぼつと咲いて散ってしまった感じで戦国武士としてNHKの放映基準として難しいのではと心配でしたが、最近いくつかの放送局で、信幸公や幸村公のことが、戦国武将として放映されていきました。これだったらNHKでやらない訳がないと、確信しました。東京真田町の会も25年の歴史のもとに30周年、50周年を目指して頑張ります。どうか今後共よろしく願っています。

〔上田市副市長石黒 豊様の挨拶の概要〕

未曾有の東日本大震災から1年以上たつとも傷跡は癒えず、原発さえなければと良く耳にします。現在でも被災地の主な市町村に職員88名を派遣しており、物資や義援金も続けており市民の皆さんも募金活動等協力してくれています。

上田市にも世帯数で38戸人数では102名の方が避難しており、地元へ帰ることが出来ず、定住したいとの声も聞こえて来ますので、柔軟に対応しようと考えています。

会長から大河ドラマの件では大変ありがたいお言葉をいただきました。署名の事ですが当初の目標を大きく上回り七万八千以上の方から頂きました。市長曰く「七重八重桜咲く桜咲く」と語呂合わせをし、放映認定まちが無いと言うことで4月25日に関係者と6回目のNHK訪問をしました。

次に上田市も合併後7年になるが市の花と言うものがありませんでした。市民の皆さんに応募したところ「桜」との賛同者が多かったので、ひらがなで「さくら」と決り、上田を桜の花でうめ尽くそうと考えております。

かねてより建設していた、産婦人科病院が4月開院しましたが、まだ医者が不足している為、田舎へ行っても良いとゆう方がいたら紹介して頂きたい。2019年にはラグビーのワールドカップが日本で開催予定ですので、サッカーなどで菅平は夏のスポーツのメッカでもありますので真田町菅平の名を広める絶好のチャンスですので、そちらの対応もしている所でございます。

それと以前からお話している、交流・文化施設で「旧たばこ産業」の跡地に決まり建設しておりますので、そんな状況もご覧になって下さい。これからも上田新時代に向け頑張っております。

〔議事〕

会務会計報告・決算報告・監査報

告事業計画・予算計画決定・役員改選等について原案通り承認されました。

〔懇親会〕 司会 荻原 啓治理事

〔中島正江顧問 歓迎の挨拶〕

東京真田町の会もお蔭様で25回を迎え皆様に愛され、大勢の方にご出席頂き本当に有難う御座います。

私も故郷真田町が大好きで、家族中で田んぼを耕しに通ったりしております。

東京真田町の皆様も、東京上田会・東京丸子会の皆様と共に故郷上田市がますます発展する為にもいろいろな事で交流できるように願っております。どうか存分に楽しんでいただきたいと思います。

〔来賓ご紹介〕 金子 誠 理事  
来賓の方をご紹介します。

上田市副市長 石黒 豊様・眞田地域自治センター長 高橋 義幸様・上田市議会議長 尾島 勝様・上田市議会副議長 清水 俊治様・上田市議会議員 古市 順子様・上田市議会議員 三井 和哉様・上田市議会議員 半田 大介様・上田市議会事務局長小山 晃様・私たちの会の窓口となりお世話になっていきます眞田地域自治センター―地域振興課政策係の林 英夫様・東京上田会副会長 成田 邦夫様・東京丸子会会長 土屋 博様  
(今回初めてお招き頂きましたが

今後もお招きいただけるかなーと期待いたしております。宜しくお願いたします。) 以上ご紹介を終わります。 全員大きな拍手でお迎え致しました。

〔上田市議会議長

尾島 勝様 祝辞〕

今までは眞田出身の議員でしたが初めて眞田町以外の私が参加してきたのは合併の効果と嬉しくおもいます。色々お伝えする事を考えて来ましたが、皆さんに先お話されてしまいましたので、どうしたものかと考えましたところ、実は私も眞田町には大変縁があることに気がつきました。女房が萩の出身であり、住んでいる所が神川の下流であり、眞田と徳川の合戦地でもあります。そんなわけで私は上田合戦と書かず、神川合戦と書いた幟旗を国道沿いに15本程立て眞田をアピールして是非眞田幸村の大河ドラマが実現して、眞田の二文字が電波で全国のお茶の間に届く事を願っております。



〔東京上田会副会長〕

成田 邦夫様 祝辞

私の生まれは上田の常磐城（西脇）ですが、真田には子供の頃から縁がありまして、親戚の家に眞田線に乗り良く行きました。先月の29日に上田の眞田まつりに参加しました。その際、母袋市長からお聞きしましたが、大変な人数の署名が集まったとの事でした。是非NHKの大河ドラマが実現され眞田の名が全国津々浦々まで届く事を祈念いたします。

ついでに申し上げますが、上田市役所の裏手にある「琴笙庵」と言うお蕎麦家がありまして、そこで買ったネクタイ（副会長さんが締めておられた）ですが、眞田十勇士の絵柄がついています。その女将である花岡様に東京で皆さんに是非紹介してくれと頼まれました。皆さん上田に行かれましたら、是非立ち寄って見て下さい。

〔柳澤 實様乾杯の挨拶〕

人間八十六年と三分の一やっておりますが、会報「日本ダボス」のような、立派なものに接した事がありません。先程来眞田幸村公のドラマの話が出ておりますが、副市長さんどうか私の息のあるうちに（一同笑い）是非とも実現させてください。上田市・眞田町・東京眞田町の会の皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。カンバイ！

歌手の岩田美智子様のご歌にあわせての中島正江顧問の踊りを楽しみながら懐かしい話とお酒で盛り上がり、御馳走も十分あり、方言も飛びかい、元気だったかい等と皆さんの笑顔が絶えませんでした。

今までは、眞田町出身の方でした。が此の度、初めて上田市（中之条）から、眞田地域自治センター長になられた、高橋義幸様にもご出席いただきました。大変眞田町にも縁が深いとの事でした。そして、眞田が大変好きだと申され眞田町発展の為に尽力して下さるとの、有り難く力強いお言葉を頂きました。

今年も上田市より特産品のお土産「りんご」を頂きました。副市長様自ら音頭をとってください、じゃんけんをして、勝った方（11名？）が頂きました。11月頃送っていただけとの事でした。お蔭様で大変な盛り上がりでした。本当にありがとうございました。そのあと全員で恒例の輪踊り「眞田郷」を踊り終え、お別れを惜しみつつ、楽しかったね、また来年も元気で会おうね、と家路に向かいました。

尚来年の東京眞田町の会の、第26回総会・懇親会は平成25年5月26日（日）に予定しております。スケジュール表に加えていただき、参加いただけます様よろしくお願いたします。（写真掲載37頁）



☆ 総会出席会員名簿  
(敬称略・順不同)

長

- 大久保治夫(大日向)
- 大橋けさ子(菅平・山本)
- 荻原 啓治(四日市)
- 川上 年美(菅平・宮崎)
- 倉島今朝二(角間)
- 倉島 義明(横沢)
- 塩沢 和政(大日向)
- 塩沢 春江
- 篠崎 さく(大日向・大久保)
- 柴田小夜子(菅平・市村)
- 杉崎寿三男(菅平)
- 鈴木 郁夫(横尾)
- 鈴木 邦子(横尾)
- 武田 守央(真田)
- 中島 正江(戸沢・関谷)
- 花岡 孝雄(横尾)
- 原田 好幸(横尾・山崎)
- 広川 雅子(横沢・久保)
- 真柴 邦子(横尾・神田)
- 宮島 光男(横尾)
- 山口 元彦(横沢)
- 若林 正春(大洞)
- 傍陽
- 飯島 啓三(中組)
- 石巻 政治(曲尾)
- 井上かつよ(田中・堀内)
- 金子 誠(田中)
- 小林 正子(下横道・堀内)
- 佐藤 昌江(萩・柳澤)
- 清水 甫子(田中・金子)
- 杉村 房枝(萩・落合)



- 関 弘吉(中組)
- 館野 清實(田中・堀内)
- 中沢 欣勇(下横道)
- 中村 惠美(萩)
- 中村 洋子(田中・木下)
- 萩原 清人(萩)
- 半田 喜章(中横道)
- 平田 金子(岡保・橋詰)
- 堀内 福(下横道)
- 堀内 敏文(下横道)
- 堀内 寿美(上横道)
- 堀内 幸(下横道)
- 武捨 衛人(中組)
- 柳澤 實(萩)
- 堀内 勝(下横道)
- 本原
- 飯島慶三郎(下原)
- 鈴木 民子(竹室・高寺)
- 横沢 義雄(大畑)



# 各部の活動報告

## ☆ 親睦旅行

期日…24年10月28日～29日  
 参加者…男十・女十・計二十名  
 行程…1日目 大宮駅西口大宮ソニックビル パレスホテル入口前で送迎バスに乘車(九時)～国道二五四～関越道・東松山IC～上里SA～上信越道・湯の丸IC～真田町着(一二時)・「ゆきむら夢工房」でふるさと産そば粉のそば打ち体験・昼食～文化会館で十五周年記念公演「真田六文銭太鼓」の演奏を鑑賞(見事!)～真田歴史館で語り部・常田軍三さんの講話～大松農園・りんご狩り・信濃スイーツが美味でした～鹿教湯温泉「鹿鳴荘」(一七時着)

2日目 「鹿鳴荘」(九時)～「生島足島神社」～「信濃国分寺」・資料館で勉強・少し賢くなれたかな～国道二五四～佐久おぎのや(昼食)～上信越道佐久IC～関越道東松山IC～国道二五四～大宮駅西口(一七時)(写真↓38P)

担当理事 堀内 幸

## ☆ スポーツ

### ◎ ゴルフ同好会

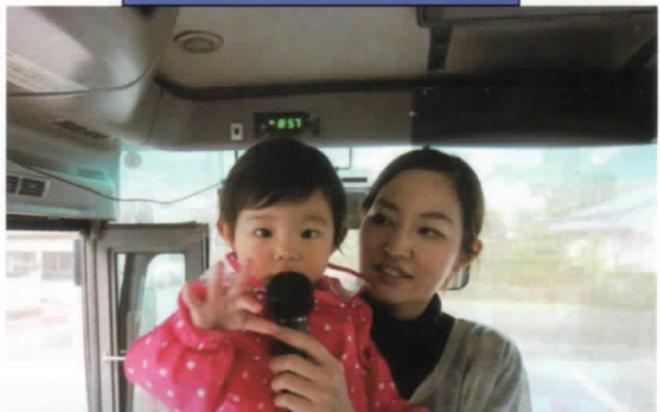
春の真田町の会・上田会合同ゴルフコンペは3月21日に強風の中、茨城県の名門常陽カントリー



楽しい湯の宿の夕食のひと時です



真田文化会館前に勢揃い



さようなら! 若女将もジュニアも美形!(鹿教湯)

クラブで当会が幹事を担当して開催されました。出場者二〇名、当会からは八名が出場し、春の陽光を浴びて健闘し、スポーツと親睦の日を楽しみました。

Wペリアで争われた順位戦は横沢義雄氏が一位、二位に堀内 政氏、三位は伊東紀男氏でベスグロは実力を発揮した堀内 政氏でした。

秋期の当会・上田会交流ゴルフ大会は上田会の幹事担当で中津CCで開催、出場者一九名(当会七名)。優勝・佐藤宏次氏、準優勝・飯島慶三郎氏でした。

次回は、来年三月一二日、取手の常陽CCで開催の予定です。大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

おります。

担当理事 堀内 政、荻原啓治

### ◎ マレットゴルフ

春の大会は5月3日の計画でしたが生憎の雨に祟られ中止されました。

秋の大会は一〇月二一日にいつもの新座マレットコースで六名の参加(男4・女2)で開催されました。優勝は滝沢幸吉氏、準優勝は滝沢けさ子さんでした。尚、次回は来年四月二七日の予定です。

担当理事 荻原啓治



秋のゴルフ大会ご出場の皆さんです

☆ 親睦一泊旅行参加者名簿  
(敬称略・順不同)

- 飯島慶三郎(下原)
- 飯島 啓三(中組)
- 金子 誠(田中)
- 深町 共栄(田中)
- 堀内 敏文(下横道)
- 堀内 寿美(上横道)
- 堀内 幸(下横道)
- 堀内 保芳(大倉)
- 武捨 衛人(中組)
- 山口 元彦(横沢)
- 大橋けさ子(菅平・山本)
- 川上 年美(菅平・宮崎)
- 佐藤 昌江(萩・柳沢)
- 柴田小夜子(菅平・市村)
- 鈴木 邦子(横尾)
- 館野 清實(田中・堀内)
- 中島 正江(戸沢・関谷)
- 中村 洋子(田中・木下)
- 平田 金子(岡保・橋詰)
- 藁袋マチエ(大日向・堀内)

## 「真田三代 語り部 の話題」のご紹介

編集部

(編集部注：真田歴史館の語り部の常田軍三さんからいただいた真田三代にまつわる数々の話題のご紹介です。)

☆語り部に話してもらいたい項目を下記からお選びください。話の

所要時間は5分から15分、長いものは30分です。◎が30分のお話です。

### 1 幸隆

◎幸隆の生涯(年譜)  
◎幸隆の先祖は天皇家の出か(真田家系譜)

真田家の先祖は牧場管理者(牧監)か昔からの土豪か  
日向畑遺跡と安智羅様と真田氏  
幸隆が武田信玄に使えた真意は  
幸隆士官の手引きは山本勘助か  
祢津元直か  
晃運字伝と幸隆の出会いと長谷寺の建立  
海野平の敗戦で幸隆が群馬に逃亡した理由は  
祖父海野棟綱の消息不明と幸隆砥石城が幸隆一人の力で落とせた真相  
◎幸隆苦節10年の故郷還住とは  
武田24将とは

### 2 信綱・昌輝

◎信綱・昌輝の生涯(年譜)  
◎長篠城と設楽ヶ原(しだらがはら)の戦いってどんな戦さか  
この戦いで初めて鉄砲が使われたと言いますが、鉄砲ってどんな武器

信玄と勝頼の器量の違いは  
設楽ヶ原の信綱・昌輝の墓はどこな墓  
白川兄弟はどうして主君の遺骸を故郷に運んだのですか  
血染めの陣羽織ってどんな陣

羽織ですか  
◎勝頼は天目山で何故自刃したのですか

### 3 昌幸

◎昌幸の生涯(年譜)  
人質ってどんなこと  
昌幸は真田姓から武藤姓へそしてまた真田姓と変わったのはなぜですか

武田滅亡の時、一時昌幸が勝頼を岩櫃城へ誘ったと言う話がありますが  
葦崎場は昌幸の城と聞きました  
昌幸は何故上田に城を作ったのですか  
◎徳川家康は何故上田城を二回も攻めたのでしょうか  
◎犬伏せの別れで、昌幸と幸村は西軍に、信之は東軍についたのはなぜでしょう  
昌幸・幸村は徳川軍に大勝したのに高野山に蟄居させられたのはなぜか  
昌幸は「表裏比興の者」と言われましたがそれはどんな意味ですか  
◎上田城が攻められた時、昌幸は巧みな戦術で徳川軍をあしらったようですが高野山蓮華定院での蟄居が九度山に移ったのは寒かったからだと言われています

な気がしますが  
二人はどこで生まれ、どこで育ちましたか  
昌幸が家康の人質になった理由  
昌幸が小松姫を嫁にもらった時の逸話があるそうですが  
犬伏の別れの時、昌幸と幸村を小松姫が沼田城に入れないのですか  
◎関ヶ原合戦の後、昌幸と幸村は死罪になるところを、信之と小松姫が家康に頼んでやめさせるんですが、できないことですよ  
元和八年に信之の時代、真田は幕府から松代へ国替えを命じられるんですが、その時の信之の気持ちはどうだったでしょうか  
九度山の二人の蟄居生活は苦しく、国元からの仕送りが大変なようでした、小松姫は鮭や焼酎を送るなど気配りを尽くしたようですよ  
大坂の陣の時信之は病期で参軍できませんでしたが複雑な思いだったでしょうね

◎幸村の生涯(年譜)  
本名は信繁なのに何故幸村として有名なのですか  
幸村は第一次上田合戦の時上杉景勝の下へ人質として行きましてね。その後、引き続いて秀吉の下へ行きました。どうし

◎信之の生涯(年譜)  
信幸の幼名は源三郎で長男、幸村は源次郎で次男、名前が逆なよう

### 4 信幸

◎信之の生涯(年譜)  
信幸の幼名は源三郎で長男、幸村は源次郎で次男、名前が逆なよう

てでしょうか

幸村の妻竹林姫は敦賀城主大谷吉継の娘だそうだが

幸村の蟄居生活は十四年間に及びますが大変だったでしょうね

長い期間の蟄居生活の幸村の楽しみは何だったんでしょうか

大坂の陣の時、秀頼側近から大坂城入場を頼まれ入場した理由は何

か  
どうやって敵しい監視の中、九度山を脱出できたのでしょうか

◎幸村は生涯でただ一度の花を咲かせるチャンスと大坂城に入ったと言われていますが

家康から幸村に「信濃一國をやるから徳川方に味方しろ」と誘いが来るんですが

真田十勇士は実在した人物たちでしょうか

幸村は大坂夏の陣後鹿兒島に逃れたという伝説があります

## ◆大坂の陣のエピソード

### 1 九度山からの脱出

○幸村は村人に酒を振る舞い、酔わせて眠った隙に脱出したといわれていますが

○村人たちは幸村の脱出に協力したといわれていますが

○紀州の藩主浅野長晟(ながあきら)の警戒はあまり厳しくはな

かったのでしょうか

○幸村一行にはどんな人たちが同行していましたか

○九度山から大坂城へはどんなルートを通って行きましたか

2 大坂城入城  
○大坂城に入った時の幸村の家の数は何人

3 幸村の作戦  
○入場した直後の軍議で幸村は、京都・近江への出撃案を提案したといわれていますが、どうなりましたか

○天王寺の家康の本陣への奇襲作戦を提案したといわれていますが

4 真田丸  
○大坂城の総構えの外に築かれた「真田丸」とはどんな要害でしたか

○幸村は何故真田丸を構築したのでしょうか

○真田丸は父昌幸が築城した葦崎場の「馬出(うまだし)」と「三日城堀」の構造によく似ています。なぜでしょうか

5 大坂冬の陣  
○冬の陣の初戦で、真田丸を攻めた前田軍が大敗しましたのは何故

○幸村にとって鉄砲は、重要な武器だったといわれていますが、それは何故でしょうか

6 幸村は六文銭の旗印を使

ったか  
○大坂城天守閣の「大坂城夏陣図

屏風」に六文銭の旗印は使われていた。本当か嘘か

○「六文銭」の意味は三途の川の渡し賃が六文であるところから「決死の覚悟」を表すものという説がある

7 東軍の真田家  
○信之は何故東軍に参加しながら、大坂の陣に出陣しなかったのでしょうか

○家康は叔父信尹を通じ、「味方になれば100万石」と示しましたが幸村は断ったとい

います。本当でしょうか

8 和平交渉  
○冬の陣はどうして和睦したのでしょうか。淀君の意見で「家康は既に老齢であるから、その死後に挙兵して関東を滅ぼし

ましょう」という意見が容れられた結果だといわれています

○和平条件は「大坂方では、一番外側の構えや堀の破却と考えました

ましたが、徳川方は、すべての構・堀に適用するとして破却してしまいました。真田丸も壊されてしまいました。城は丸裸になったのです」

9 つかの間の休戦  
○幸村は和議中に家康や秀忠の本陣の襲撃案を秀頼に勧めたという話が残っていますがどう

うなりましたか

10 夏の陣始まる  
○夏の陣が始まったときは、幸村

は軍議に再度宇治勢多進出案を提起したそうですが、またも採用されませんでしたね

○結果的にこの軍議では場外決戦が決定され、ただただ家康・秀忠を討ち取る事のみを狙う起死回生策に変わりました

11 野外決戦  
○夏の陣の5月6日の道明寺口合戦で、大坂城に引き上げる幸村は、「関東勢百万も候へ、男は一人もなく候」という話が残っています

12 最後の決戦  
○最後の決戦の日、幸村は息子の

大助に大阪城内に戻り、秀頼公の側で命を尽くして戦う要命じたと言われています。何故でしょうか

○幸村は士気を高めるため大野治長を通じて秀頼の出馬を要請しましたがしませんでした。その理由は

13 真田の不思議と幸村の統率力  
○幸村には七人の影武者がいたと、真田三代記にあります

が、影武者の活躍について教えてください

○上田城の抜け穴のある井戸のあることは有名ですが、大坂城にも三光神社に向けて抜け穴があると聞いています。何のために作られた抜け穴だったのでしょうか

14 幸村の最後

○勇将幸村は夏の陣最後の日の慶長20年5月7日、どんな状況で、誰によって討れたのでしょうか。

○この日の戦い振りについて、幸村は「日本一の兵（ひのもと）のちのつわもの」と評されました。誰が、どんな記録を残しましたか。

### 15 幸村の子孫たち

○幸村の子女のうち阿梅（おうめ）、阿菖蒲（おしょうぶ）、おかねと大八の四人は生き残って、真田の子孫として続いたのですが、何故生き残ることができたのですか。

○大八生存のマル秘作戦ってどんな作戦ですか。

### 16 信之のその後

○馬場という家臣が信之の逆心を幕府に讒訴したという話がありますか。

○信之は「真田騒動」という真田の危機をどう乗り切ったのでしょうか。

### 17 真田の情報収集方法

○祢津の「歩き巫女」や「羽黒山の山伏」という情報活動ノエキスパートがいたそうですが。

### 18 創造されたヒーロー

#### 幸村

○家康が幸村の夜襲で討ち死にしたという話があるそうですが。

○幸村は生きて鹿児島や秋田に逃亡したという説があると聞

いています。

○江戸時代には「難波戦記（なにはせんき）」や「真田三代記」などの本、講談幸村の人氣が確立し（第一次）。次に、大正初期には「立川文庫」によって人氣が沸騰（第二次）。そして現代は、漫画、DVDで人氣の頂点（第三次）に達していると言われているが、それについてコメントしてください。

## 自分誌抜粋

萩 出身 柳澤 實

ここに紹介する自分誌の中に「慰安婦」にふれた部分がありますが、彼女達を強制的に現地に運んだ、そんな事実はありません。

この先に掲載する「自分誌抜粋」は私が昭和50年から55年にかけて綴った自分史の一部をコピーしたものです。

世間には自分誌を認（した）める多くの人物が存在すると聞きますが、それが自慢話であったり、己を美化したもの、その様な作られたものに私はなんの興味もない。

最近、この慰安婦の話題が賑やかになっていますが、私も近いうちかどうか知らねども、いずれ現世から来世へ引越し、その時は自分誌も連れて行くつもり…

韓国は第二次世界大戦後、我が国

敗戦のさなか、そのドサクサに紛れ、世界のどの国も認めない「李承晩ライン」なるものを洋上に引き、その囲いの中に「竹島」を抱え込む、これが実態だ。

この問題を有利に導く為、あらたに慰安婦問題を提起、盛んに自己の正当性を主張しおろが、私の認識とは大分かけはなれたもの、彼女たちは高額な報奨を約束、自由意志の中で応募、これが大方の理解だ。当時トラック諸島には多数の朝鮮人が軍の労務者として就職しており、彼等も亦慰安所の利用者なり。

次に私が昭和50年より55年にかけて綴った自分史の一部の抜粋をコピーで示します。

戦後六十余年余、戦争体験者も経



年減少を辿るいま、局地的ながら、実情を皆様方にご認識頂ければ幸いです。

尚、南洋委任統治地とは、第一次世界大戦に連合国軍として参戦した我が国が、敗戦国ドイツの植民地の南洋諸島の統治を国際連盟から委任された群島であり、それらはサイパン・テニアン・カロリン・トラ

ック・マーシャル・パラオ各諸島、群島などである。

以下自分史の一部コピーです。

『…にじむ涙を拭う術もなく傷心に打ちひしがれ、日本の国土と彼女への決別、夜陰に乗じての出港は多難な自分の人生を象徴するかの如く、東京港を出港して既に一週間、気候は亜熱帯を想わせる程に、誰ともなく南十字星が視界にあることを報らせており、任地の発表はなくとも目的地は南であることが十分予想された。護衛艦を含め十隻近い船団は昼夜の別なくジクザクコースを採り、日中の陽射しは絶えず右に左に移行、天候に恵まれし航海は敵潜の監視当直を除けば緊張感もなく島影一つ望めぬことにいささか退屈さえ覚える毎日であった。

目的地、トラック島に投錨したのは四月下旬、照りつける陽光は酷しく、さすがは南国、上陸に先だつ注意が先ず「素肌を焼くな」であり、以後の生活で南方には朝の涼しいことを知った。何故ならば朝の涼しさが皆無で、日の出即、日中の暑さだからである。

トラック島、正式にはトラク諸島と呼ぶべきで数十の島から成り立ち、主たる島も、四季島、七曜島、十二支島、松竹梅島等サンゴショウに囲まれ点在し、二つの水道が艦船の出入り口となり、天然の軍港を成しており、海軍軍人、軍属、邦人、島民という人口構成であり、艦船も多数入港、南方作戦の拠点として重

要な位置を占めていたように思われる。

因みに、横須賀局気付ウ五四ウ六〇〇とは、トラック諸島の夏島を指し、島面積も諸島中二位、軍事施設は最も完備、第四艦隊の高官等も同島に赴任、島のいたるところで防空用隧道が設営隊の手により掘り進められており、海岸線より海面までせり出したマングローブのしげみ、おおよそ内地では考えも及ばぬ植物、動物、主に昆虫類魚類等、もの珍しいばかりで、果実も椰子、バナナ、パイナップル、パンの実等、戦争さえなければまこと、南の楽園にふさわしくおもわれる。

既に伸びきった戦線は随所に戦局の転機をうかがわせる脆弱さを露呈し、昭和十八年後半、ソロモン、ガダルカナルの死闘は戦局一変させる様相さえ見せており、トラック諸島を出港した多くの若い命は不帰の人となった。

この頃未だ敵襲を受けなかった同島は、慰安所等三ヶ所許りあり、内地及び半島(朝鮮)から多くの婦女が慰安婦として軍人軍属の欲望を満たしていた。

私自身、男性開眼したのもこの時期で、事後の空しさは何とも名状しがたい。

明けて十九年二月空母を伴う敵機動部隊の攻撃は碇泊中の艦船、地上防衛施設の殆どを破壊、オイルタンクより流出した油は海面を炎と化し、三昼夜に亘る燃焼はさながらこの世の生き地獄を思わせ、以降の軍官民の戦意の喪失に計り知れぬものを感じさせ、指揮系統の乱れと共に、一部ではパニックを生じ、空軍力の前には如何に堅固を誇る要塞も全く無力に等しいことを知らされた。

敵の目を盗むように細々続けられた物資の補給用輸送船、それでも物の不足、宿舎の不足等、日常生活は連日の空襲を含め、大変不自由なものとなっていた。

この様な状況のもと、民間人始め婦女子な：』

### 私の人生の

### 一ページ

中組 出身 飯島 啓三

私の仕事は鮨の仕事、長野、傍陽ではその頃は職人としてはめずらしいと言われた時代、上田駅を親に見送られ職人となるため、はるばる汽車に乗り東京へ、苦しみを知らない自分、東京は港区高輪品川へ第一歩、こわさを背に努力してまいりました。私のこの長い人生を楽しくさせた数え切れない人達との出会い、別れ、そして励ましてくれた人、

仕事を教えていただいた人達、先輩、今があるのも今を作ってくれた仲間のおかげと思つて日々を過して参りました。

皆様、東京真田町の会の会員の皆様、楽しいふるさと訪問旅行をご一緒でき幸せで御座居ます。

ところで今年の楽しい、ふるさと



と訪問バス旅行(鹿教湯温泉鹿鳴荘泊) 大宮パレスホテル前を九時に出発して一路信州へ、長野は、ふるさとへ、先ず「ゆきむら工房」でそば打ち体験、独特の甘みと食感のおそばをいただき、文化会館に移動して真田六文銭太鼓の十五周年記念演奏会を観賞、腹に響く太鼓演奏の素晴らしさを満喫、二度と聞くことの出来ない素晴らしい経験でした。

次に真田歴史館で語り部の常田さんに真田三代に関する解説をとてもわかりやすくしていただきました。ただ、太鼓演奏会も、語り部のお話も時間が足りなくて最後まで聞けなかったことが残念でした。真田地域センターのセンター長様、次長様、地域政策課の担当職員

の皆様、休日にも拘わらず私たちのために色々とお世話をいただき、本当に有難う御座居ました。東京真田町の会がいつまでも手をつないで、これからもひとつになつて発展することを心より祈る私で御座居ます。数多くの方々との触れ合いがいつまでも続きますように：

会員の皆様の  
近況報告抜粋  
(敬称略・出身区・旧姓)

1 秋葉昭雄(入軽井沢・小林) 出席できなくてすみません。ご盛会を祈ります。

2 荒木廣之(下原) 会員御一同様の益々の健康とご多幸をご祈念申し上げます。御陰様で当方は変わり合いません。

3 飯嶋啓治(秋) 山口会長殿いつもごころうさまです。欠席としましたが、体力に自信ができれば出席したいと考えています。

4 飯島啓三(中組) 今回も皆様とお会い出来ます事を楽しみにしております。

5 石巻哲夫(曲尾) 商売しており、日曜日は休みが

取れません。もうしばらくすれば出席できるような気がします。よろしくお祈りいたします。

#### 6 石巻伸夫(曲尾)

毎年のご連絡ありがとうございます。元気で暮らしています。「盛会を祈ります。同日は上山田で中学の同級会に出ます。」

#### 7 井出道子(本原・南條)

役員の皆様いつもありがとうございます。出席できず残念です。

#### 8 井上かつよ(田中・堀内)

寒かった日々も過ぎ、やっと春らしい季節になりました。役員の皆様、御苦勞様です。今回も楽しみに出席させて頂きますので宜しくお願い致します。

#### 9 岩井泰子(本原・荻原)

役員の皆様にはいつもお世話話になりまして本当にありがとうございます。私も70路を迎え、気持ち若い頃とちっとも変わらないつもりですが、何かにつけて自分の老いを感じて居ります。欠席しますが25回記念総会が盛大に行われますことを願っております。

#### 10 岩崎 弘(中原)

先約があり欠席します。「盛会をお祈りいたします。」

#### 11 岩崎みち子(長・正木)

当日は結婚式があり出席できませんが皆様によるしくお伝えください。申し訳ありません。

#### 12 上原佳和(中横道)

18521日まで大阪に行く予定

定です。

#### 13 内海章緒(大庭)

申し訳ありませんが毎年5月の第3日曜日は別の会があり、そちらに出席させていただきます。

#### 14 内海辰三(大庭)

80余歳の高齢となり、体調が十分でなく、気力丈で生きている様な毎日です。若い人達が元気で一層活躍されます事を希望致します。

#### 15 内海宏光(大庭)

3月30日、わが郷にも春一番が吹き荒れました。一安心、横の畑も雪が消え、はこべがこんもりと茂り始めております。昨年取り残した野沢菜の株から芽が大分伸びたので小籠に一杯摘みおひたしにして春の香りを頂きました。ところが次の日、朝から雨と寒風、昼頃山々を覆っていた霧が晴れ、そこには霧氷に覆われた樹木の峰々が現れました。我が郷の春は未だでしょうか？

#### 16 大久保照男(大日向)

設立当初から長期間大変お世話になり有難う御座いました。今回を持って退会させて頂きますので宜しくお祈り致します。末永く会の発展を祈念しております。

#### 17 大橋けさ子(菅平・山本)

お世話になります。役員の皆様「苦勞様です。アトラクションを楽しみにしております。」

#### 18 荻原 學(真田)

老いてもふるさとのあの山川、

学んだ學校、遊んだ友、田畑の手伝い、浮き浮きの祭り等心の宝です。

#### 19 荻原淑子(穴沢)

当面出席できませんが、会報で真田町の様子を想像し、楽しませていただけて居ります。穴沢でお世話になった旧友が我が家の近くの施設に入居しており、会報を持参して話の種にしております。

#### 20 大久保あき子(菅平・川上)

大変遅くなって申し訳ありません。今回は予定が入っていません。次回を楽しみにいたします。

#### 21 海瀬弘司(曲尾)

当日は甥の息子の結婚披露宴のため真田に帰ります。「盛会をお祈りします。」

#### 22 加賀見昌子(横沢)

お世話様です。欠席ですみません。

#### 23 鎌田ちえ子(三島平)

行事が重なり出席できません。

#### 24 河合ふさよ(曲尾・海瀬)

以前より主人の体調が思わしくなく会のほうへの出席も思いにまかせず脱会せざるを得ません。本日に長い間お世話になりましたがとうございました。下位のご発展を心よりお祈りいたします。

#### 25 川上年美(菅平・宮崎)

私、昨年の7月息子が死んだので住所が変わりました。よろしく新しい住所は東京都中野区本町4丁目17番地22新宮藤荘2

号です。

#### 26 久保新一(角間)

25周年「苦勞様です。「盛会を祈ります。」

#### 27 倉島今朝(一角間)

2年ぶりの出席ですが楽しみにしています。よろしくお祈りします。

#### 28 倉島今朝徳(長)

先般、堀内寿様から赤池三男様の紹介として東京真田町の会開催に関して参加案内状をいただきました。丁度当日は野球関係の仕事が入って居りまして、残念ながら参加できません。赤池様にはすでに連絡済みです。通知をいただき有難うございました。

#### 29 倉持信郎(入軽井沢)

2011年3月11日、東日本大震災、1年後の現在も余震などが数多くありまして家を空けることが大変に心配であります。本年も欠席いたします。年会費は送金いたしました。

#### 30 小林勝美(入軽井沢)

妻が病気で毎日看病にあたっているため、欠席させてもらいます。皆様によるしくお伝えください。

#### 31 小林公江(大日向・塩沢)

幹事の皆様いつもお世話ありがとうございます。今年も他の行事と重なり残念ですが欠席します。創立25周年祝賀のご盛会を

お祈り致します。

32 小林重利(入軽井沢)

「総会と懇親会」の案内ありがとうございました。生憎当日は高校時代の同級会と重なるため欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りいたします。ハガキが同封されておりませんでしたので本状で出欠の連絡とさせて頂きます。

33 小林孝雄(傍陽)

4月初めより、信州の弟ががんの為危険な状態となり、5月8日遂に死亡しました。葬儀、その他で多忙を極め、かつ高齢のため疲労しており、残念ながら欠席します。

34 小林正子(下横道・堀内)

桃井(牧内)俊江さんと菅原(西牧)節子さんを誘いましたところ、当日いけたら行くといつ「返事でしたので、来て下さることを楽しみにしています。よろしくお願います。」

35 小林洋二(横尾)

山口会長殿、お元気で「活躍の御様子にて何よりです。中学校時代を思い出します。当方も現在現役で仕事をやっています。当日友人の子息の結婚式に出席しますので欠席いたします。

36 小山末江(萩原・牧内)

役員の皆様「ご苦勞様です。行事が重なり欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りいたします。

37 紺野敏子(長・神田)

妻敏子は一昨年(2010・1・17)、クモ膜下出血で倒れ、現在も入院加療中です。お便り有難うございます。

38 斎藤 勇(中組)

足腰が悪いので退会します。お世話になりました。

39 斎藤民子(下塚・山浦)

自治会長さん紹介欄で新地区名を見て、地域の発展を喜び、甥の名前(少し前)を見つけ、へえーと思ったり：小中学校入学者数に驚いたり：ふるさとの様子を垣間見させて頂いています。

40 坂口 守(中横道)

当日は都合がつかず欠席させて頂きます。山ざる会の折は「ご苦勞様でした。」

41 桜井和子(下横道・中沢)

昨年は旅行に参加、お世話になりました。ありがとうございます。

42 笹沢けさむ(横沢・久保)

役員の皆様にはいつもお世話様です。しらかば通信楽しみに読ませていただいています。遠方外出はできませんので欠席です。よろしく

43 佐藤宏次(田中)

毎日元気に年金生活を楽しんでいます。創立25周年の祝賀会が盛大に開催されますようお祈り申し上げます。

44 佐藤仲男(下郷沢)

長い間お世話様になりました。今回で退会させて頂いたいただきます。

ありがとうございます。

45 佐藤昌江(萩・柳沢)

お世話になります。どうぞよろしくお祈り致します。

46 佐藤ムネ子(真田・矢島)

体調不良の為欠席させて頂いた

47 佐藤輪子(下横道・坂口)

いつもお世話様になっております。足・腰が弱くなりましたので欠席させて頂きます。

48 椎名己津男(横沢)

ごぶさたで申し訳ありません。今年に参加の予定と思っておりましたが、町の行事と重なってしまいました。役員としてどうしても欠席できず、真田町の会は欠席させて頂いたままです。会員の皆様、そして役員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

49 柴田小夜子(菅平・市村)

いつもお世話様です。今年も皆様にお会い出来る事を楽しみにしております。

50 清水征夫(中原)

幹事の皆様「ご苦勞様です。いつも会報、しらかば通信を楽しく読ませて頂いております。日本タボスno.24の表紙「烏帽子の遠望」に帰省の折には、是非登ろうと思えます。

51 清水清晴(中横道)

祝25周年、役員の皆様「ご苦勞様です。真田町の会は1988年

昭和63年7月2日、番町グリーンパレスで設立準備会を、同年9月10日池之端文化センターで設立総会及び祝賀会を開催、会員236名の出席で盛大に開催してからもつ25年、早いものです。ね私もおかげさまで卒寿を迎えます。(すくなしで欠席します)皆様方によりしくお伝えください。

52 清水民子(曲尾・上原)

桜の花も終わり葉桜の下にピンのジュータンの様今日この頃です。今年傍陽中学の同期会が重なりました。大変残念ではありますが欠席とさせて頂いたままです。次回は、ぜひ参加させて頂きたいと思えます。(4月17日に年会費を振り込みました。)

53 清水則夫(荒井)

横浜から東京都内(大田区)に転居しました。総会の盛況をお祈り申し上げます。

54 清水甫子(田中・金子)

幹事の皆様、大変「ご苦勞様です。真田町の会への出席を楽しみにしております。皆様にお逢い出来る事を喜んでおります

55 清水 聖(下原)

信州もやっと春らしくなってきました。この度は「丁寧なお手紙をいただきありがとうございます。真田町に転居したことで

あり、東京真田町の会を退会したいと思えます。長い間ありがとうございました。

56 清水なか子(曲尾・海瀬)  
 ご何年か体調がすべれずに居ります。本当に残念ですが奪回をさせていただきます。長い間お世話になりました。深く感謝申し上げます。真田町の会が益々発展されます事を心より祈念申し上げます。ありがとうございます。

57 白井 彰(曲尾)  
 いいつも「爪力願いありがとうございます。」

58 杉崎壽三男(菅平)  
 幹事の皆様には「苦勞様です。出席したく思い楽しみにしております。」

59 杉村房枝(秋・落合)  
 お世話さまになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

60 鈴木郁夫(横尾)  
 元気でやっております。今年は70歳になる事から仕事(オートマタ)の方も3年かけて、終了の準備に入っております。

61 鈴木邦子(横尾)

皆様にお会いできる事を楽しみにしております。

62 鈴木民子(竹室・高寺)  
 総会の通知をいただき、今年は25周年と知り、月日のたつのが早いことを痛感しております。多くの方が出席されるといいと思

います。今年もお世話になります。よろしくお願い致します。

63 武田守央(真田)  
 創立25周年総会おめでとうございます。毎日元気で過しております。会の運営、役員の皆様「苦勞様です。会の益々の御発展を願っております。」

64 館野清實(田中・堀内)  
 元気で皆様とお会い出来ます。と、亦旅行も楽しみにしております。

65 田中恒夫(横尾)  
 皆様大変「苦勞様です。お陰様で元気でいます。皆様によりしくお伝えください。」

66 塚田加代子(横尾・宮崎)

ふるさとの便りを伝えてくれる「しらかば通信」を楽しみにしています。真田幸村のドラマ化を心より望んでおります。

67 中沢欣勇(下横道)  
 返事が大変遅くなりまして誠に申し訳ありませんでした。元気にしております。皆様とお会い出来ることを楽しみにして居ります。

68 中沢志げ子(戸沢・柳沢)

お世話になりましたが都合により退会したのでよろしくお願

い致します。

69 中島正江(戸沢・関谷)  
 総会で岩田美智子さんの歌、楽しみです。桜の花も少し散り始めましたが、上田城千本桜まつりも

はじまります。どこでも春の便り、軽井沢のからまつ林の新芽の頃とてもいいですね。私はこれから棚田の田んぼの田植に向かつて準備です。

70 中村洋子(田中・木下)  
 今の内、歩ける内と、行ける時は出かけています。今回もよろしくお願致します。

71 成澤今朝信(秋)  
 先日帯状疱疹で入院し完治までもう少しかかるので欠席します。

72 野村勝太郎(秋)  
 今年も親子大会と重なり、出席できません。

73 野村富子(秋・橋詰)  
 都合がわるく出席できませんのでよろしく、すみません。

74 半田喜章(中横道)  
 お世話様になります。暫く参加出来なかつたので、今年は参加したいと思えます。

75 平田金子(岡保・橋詰)  
 25周年おめでとうござい

ます。いつもお世話になっております。しらかば通信のお堀の電車、私を通ったときの思い出、とても懐かしく読ませて頂きました。又

よろしくお願致します。

76 橋詰吉万雄(中組)

去る4月17日傍陽小学校19年卒業生の同級会を上山田温泉で開催。東京駅で集合、上田で合

流、今年も参加出来た事に喜びを感じております。今回真田町の会に参加できず残念です。

77 半田幸一(田中)  
 幹事の皆様「苦勞様です。厚く御礼申し上げます。小生昨年十月より、今までの悪かった処がむくみがひどく、両足ともで、未だに原因が分からずで残念ながらまだ欠席させて頂くことに相成りました。申し訳ない次第です。ご盛会を願っております。乱筆で失礼します。

78 久野けさ志(中横道・堀内)  
 当日法事の為済みません。皆様によりしくお伝え下さい。

79 深町共栄(田中・山岸)  
 創立25周年の祝賀の会ですが、あいにく旅行と重なり欠席いたします。盛会をお祈りいたします。

80 堀内 福(傍陽)  
 元気ですー「ゴルフ楽しんで

ます。

81 布施京子(？・木島)  
 元気です。

82 堀内敏夫(中横道)  
 昨年父が5月、母が11月に亡くなりまして。これからも出来るだけ帰省したいと考えています。

83 堀内敏文(下横道)  
 連絡ありがとうございます。今年も出席いたしますのでよろしくお願致します。

84 堀内寅次(横道)

体調が悪く残念ながら欠席いたします。「ご盛会をお祈り申し上げます。遅くなり申し訳ありません。

85 堀内寿美(上横道)

お世話様になりありがとうございます。お世話様になります。宜しくお願いします。

86 堀内 政 私事で恐縮に

存じます。当日北海道旅行と重なり欠席いたします。盛況なる会を祈念致します。

87 堀内 幸(下横道)

秋の一泊旅行多数のご参加をお待ちしております。行き先等は検討中です。「意見がありましたらお聴かせ下さい。」

88 堀内保芳(三島平)

田舎での法事と重なりました。

89 堀籠道子(横道・上原)

またまた所用があり、残念ながら欠席とさせていただきます。毎年重なってしまいますが、太平洋一周クルージングを申し込んであり、先が短いのに残念ながら欠席とさせていただきます。

90 丸山広義(曲尾)

遅くなりまして申し訳ございません。今年も他に所用がありまして、皆様にお会い出来ず残念です。皆様方の御健康をお祈り致しますと共に御盛会をお祈り申し上げます。

91 三井芳郎(大庭在住)

出席できると思い楽しみにしていましたところ、親戚の結婚披露

宴と重なり、残念ながら欠席いたします。「ご盛会を祈ります。」

92 武笠喜久子(萩・牧内)

都合により退会致します。長い間ありがとうございました。

93 武捨衛人(中組)

今年創立25周年ですが、最近退会される方が多く、この欄の入り作業が寂しくなりました。皆さん元気なうちに総会などに集まって、ふるさと言葉を交わしながら食べて飲んで、楽しいひと時を持ち若さを取り戻しましょう。

94 宮崎十人重(菅平)

いつもご連絡ありがとうございます。今回は残念ながら都合により欠席いたします。よろしくお願い致します。

95 宮下毅士(真田)

東日本大震災から一年余り、余震がまだありますが、その後被害もなく、過しております。まだ一度も参加していませんので行きたかったのですが残念。

96 八木五郎(中横道)

勤務地は変わらずとも、前の会社に帰れず新会社で4月より、(日)祭日休暇取れず、奥さん(パート)優先です。(身内)3人歳上知、友人(2人歳下)と法事のオンパレード、皆々さんによりしくお伝えの程を！

97 山口義弘(真田)

組合総会に当たり残念ながら

出席できず、来年に期待。

98 山本道子(大庭・成沢)

25周年との事、御世話してくださる皆様、いつも有難う御座います。出席しようと思つて居りましたが、最近になって、膝の痛みが強くなり、残念ながら欠席いたします。

99 柳沢郁政(戸沢)

昨年に世界遺産になる中尊寺は行き、帰りに気仙沼の被災地へ、津波のひどさを知りました。東海、九州の沿岸居住者の見学が多いとのことでした。

100 柳沢俊美(戸沢)

都合が悪く欠席します。皆様によろしくお伝えください。

101 柳沢 實(萩)

5月20日皆様と飲み食べ、おしゃべりを楽しみに：行きます。

102 柳橋米子(下横道・内川)

お世話様です。3月に夫が亡くなり、法要その他のことで、都合がつかせません。申し訳ございません。私はなんとか過しております。皆様によりしくお伝えください。

103 横沢武典(大畑)

都合悪く欠席ですが、皆様によりしくお願ひします。

104 横沢義雄(本原)

「真田幸村」のNHK大河ドラマ実現すれば良いですね。

..... 投稿・寄稿のお願い .....

日本ダボス 26号・しらかば通信 17号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは2,400字以内、しらかば通信は800字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

～会員消息～ (敬称略)

〈入会〉

安田 尚 〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-18-9 (本原・下原)  
堀内 勝 〒386-0004 長野県上田市殿城 279-10 (傍陽・下横道)

〈住所変更〉

川上年美 〒164-0012 東京都中野区本町 4-17-22 新宮藤荘2号 (菅平・宮崎)  
紺野敏子 〒105-0022 東京都港区芝大門 2-7-10 901 (横尾・神田)  
清水則夫 〒143-0025 東京都大田区南馬込 2-22-16 d グランセ南馬込 208 (本原・荒井)

〈退会〉

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

安田美智子 河合ふさよ 佐藤伸男 斎藤 勇 坂上喜代美  
笹生 洋子 清水 聖 清水なか子 石井寿恵子 石橋 敏子  
大久保照男 中切 久子 中沢志げ子 武笠喜久子 葉袋マチエ

〈逝去〉

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

六川 友雄 上原 辰夫 清水 甫子 原 あや子

次回総会の予告

平成25年の総会、懇親会は5月26日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。  
詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第17号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成24年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。  
会員の自然減で会の資金繰りも苦しくなっております。宜しくご協力をお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第25号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさととの交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も二四年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまます。

皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願ひ申し上げます。

連絡先 山口 元彦

〒184-0012 東京都金井市中町二一九一六

☎ 03-5215-1511 FAX 番号 03-5215-1512

☎ 042-383-6555

ふるさとのコーナー“生のふるさと便り”をお楽しみください

インターネットの検索窓に「上田市役所 ホーム」と入力して検索ボタンをクリックし、検索結果の「上田市役所 - ホーム」の項をクリックして上田市役所のホームページを開き、トップページ左側最上段の総合案内項で「広報」をクリック、開いた画面で中央の地域自治センターだより「さなだ」の画面をクリックで開き最新号の項にある平成24年11月16日号をクリックすると最新号をフルページの拡大画面で見ることが出来ます。2頁(カメラニュース)のトップには当会のふるさと訪問旅行の様子(そば打ち体験・真田歴史館見学)が写真入りで紹介されています。(33頁参照) お暇な折に訪れてみてください。ここでは《トップページ》のほか、《カメラニュース(2頁)》《真田地域協議会だより(3頁)》《公民館だより(4頁)》と盛り沢山の、ふるさとのホットニュースにリアルタイムで接する事が出来ます。

## 平成23年度 決算報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	350,000	238,000	総会懇親会費	650,000	533,740
総会懇親会費収入	550,000	410,000	会報発行費	600,000	495,966
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	100,000	80,000
広告収入	300,000	265,000	事務通信費	80,000	63,960
寄付金等収入	50,000	162,000	印刷費	10,000	14,350
利息等雑収入	60	20,043	会議費	80,000	83,201
			渉外費	50,000	48,690
			交通費	100,000	16,500
			雑費・手数料	80,000	27,329
			予備	25,404	0
当期収入合計	1,550,060	1,395,043	当期支出合計	1,775,404	1,363,736
前年繰越額	225,344	225,344	次期繰越額		256,651
合計	1,775,404	1,620,387	合計	1,775,404	1,620,387

上記の通り収支決算報告いたします。平成24年3月31日 会計 金子 誠 ㊟

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 ㊟

監事 堀内 幸 ㊟

## 平成24年度 事業計画

- ① 第25回総会及び懇親会の開催（平成24年5月20日）
- ② 会報「日本ダボス」第25号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 上田市との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑦ その他

## 平成24年度 収支予算

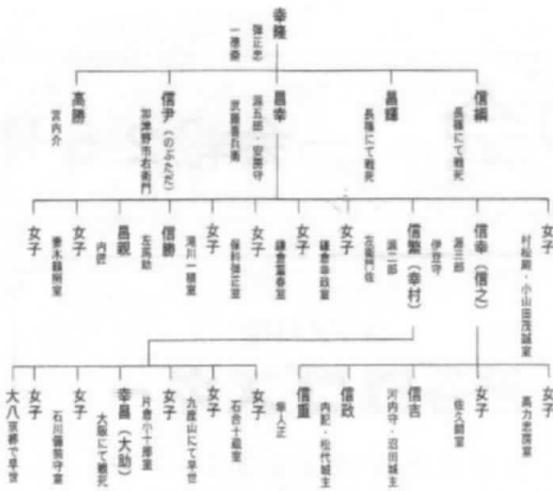
平成24年4月1日～平成25年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	320,000	総会懇親会費	600,000
総会懇親会費収入	500,000	会報発行費	550,000
上田市補助金	300,000	事業費	100,000
広告収入	300,000	事務通信費	100,000
寄付金等収入	65,000	印刷費	20,000
利息等雑収入	50	会議費	90,000
		渉外費	100,000
		交通費	50,000
		雑費・手数料	80,000
前年度繰越金	256,651	予備費	51,701
収入合計	1,741,701	支出合計	1,741,701

## 「東京真田町の会役員名簿」

(平成24年12月1日現在)

職名	氏名
会長	山口元彦
副会長	飯島慶三郎 柴田小夜子 鈴木邦子
理事	監事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (鈴木副会長兼務)
	会計理事 金子 誠
顧問	荻原啓治 花岡孝雄 古市 礼子 堀内寿美 堀内 政 武捨衛人
	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政 中島正江



真田氏系図

(真田町誌抜粋)



真田三代の漢詩

二和字會大學教授 新田大作先生作

**真田幸隆公**  
御前朝臣たり御孫の中  
社字如親漢種徳也  
孝年の仁政民力を重ん  
直氏様を尊する惟此の公

**真田幸村公**  
高標峻たり上田城  
大軍を統帥して善る臨ふ  
戦國時分断せん天下の眞  
想つ更に善く鬼神の眞

**真田幸村公**  
石持の如き名譽を顯す  
開塞の業唯進ふ勇きを存せん  
戦場怒ら激して大日孁し  
眞烈誠心鬼神又く

真田町誌編纂会

14p に関連記事



秋の深まるふるさとを訪問

東京真田町の会の皆さんが10月28日と29日の2日間「親睦ふるさと訪問旅行」で上田市を訪れました。旅行に参加した20人の皆さんは、28日は真田地域を訪れ、ゆきむら夢工房で地元産の蕎麦を味わい、真田氏歴史館の観覧やりんご狩りなど故郷を楽しみました。鹿教湯温泉で宿泊し翌29日には生島足島神社参拝や信濃国分寺資料館観覧など、色づき始めた山々の風景や故郷の秋の味覚を満喫された様子でした。



上田市のHPの広報 さなだ最新号に  
紹介されたふるさと訪問旅行のひとコマです

編集後記

『日本ダボス第二五号』を本日お届け致します。最初に貴重な原稿をお寄せいただいた皆様から御礼を申し上げます。お陰様で充実した内容の二五周年記念号を発行することができました。

昨年3月11日の東日本大震災から間もなく2年が経ちますが、津波被害のがれき処理も放射能汚染の除染も思いのほか困難な状況にあり、さらに先日のトンネル事故によりインフラの総点検整備がすぐにも必要な状況です。資源が乏しく人口密度の大きい我が国は技術立国の推進が前提になりますが、数十年前に一気に進んだインフラの安全対策について慎重で十分な見直しを求められていると思います。

私もついに「喜寿」、昔の父や叔父たちが50代、60代で当たり前のように亡くなっていたことが、夢のようです。しかしいろいろな集いで馴染んだメンバーの引退が多くなりさみしいこの頃です。幸いにも私はボケ症状も身体の不具合も少なく、帰宅児童の見守りや若者相手の学習指導、カメラを通じての自然観賞などで脳漿の若返りを図れており、自分ながら元気に感謝している次第です。

第25号のふるさと風景には、私たちの若き日の夏のキャンプや冬のスキーで強く印象に残る菅平高原のものを真田地域センター産業観光課のご協力を戴いて集めて見ました。ご意見をお寄せください。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局長の小山様並びに真田地域自治センター、地域振興課の林様、産業観光課の小山様、お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

原稿集めにご協力頂いた理事の皆さん、編集スタッフの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

# 祝 東京真田町の会 一会報25号

## ROGOVSKI

ロシア料理 **渋谷ロゴスキー**

URL : <http://www.rogovski.co.jp> /  
E-mail : [rogovski@rogovski.co.jp](mailto:rogovski@rogovski.co.jp)

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では  
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが  
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

ロシア料理

## 渋谷ロゴスキー

東京都渋谷区道玄坂1-2-2  
渋谷東急プラザ9階  
TEL 03(3463)3665  
FAX 03(3461)5084  
営業時間 11:00 ~ 22:00 年中無休

ロゴスキー 世田谷区深沢5-5-17  
深沢カフェ TEL 03(5706)5922



# TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,  
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

●Mr. Children

●BUMP OF CHICKEN

●ゆず

●ケツメイシ

●RAG FAIR

●melody.

株式会社トイズファクトリー

顧問 井出 孝光

## SUN あなたの街のハウジングパートナー STATE

代表取締役

## 株式会社 サンステイト 最上 忠

東京都知事(6)第58002 社団法人 不動産歩容協会会員

社団法人 全日本不動産協会会員

〒155-0093 東京都世田谷区上野毛2-7-18

Tel 03-5706-5454 Fax 03-5706-5453

Email: [sunstate@coffee.ocn.ne.jp](mailto:sunstate@coffee.ocn.ne.jp)

## 祝 東京真田町の会 —会報25号—

国画水墨院常任理事  
 (元)日本選抜美術家協会常任理事審査員  
 国画院会員、師範

**森本幹生**

(入軽井沢出身)

〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8  
 ☎ 044-733-0267

貿易物流研究所所長

東京真田町の会

顧問 **小林孝雄**

(曲尾出身)

〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5  
 ☎ 045-843-8041

齋藤指圧治療院

**齋藤勇一**

(真田出身)

〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10  
 シャポール東松原 301号  
 ☎ 03-3322-6622

東京真田町の会

顧問 **塩沢和政**

(大日向出身)

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37  
 ☎ 047-450-3348

東京真田町の会

顧問 **清水清晴**

(中横道出身)

〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2  
 ☎・FAX 03-3489-0763

東京真田町の会

顧問 **中島正江**

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E  
 ☎ 03-3702-1385

オートマタ(西洋からくり)製造・販売  
 いくさ工房

**鈴木郁夫**(横尾出身)

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7  
 ☎・FAX:048-864-0295  
 mail:s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp  
 http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/

東京真田町の会

顧問 **三井芳郎**

(大庭出身)

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510  
 ☎ 0268-73-2616

恩師のいる街・真田町大好き人間

**赤池三男**

(坂城町南條出身)

〒164-0003 中野区東中野一丁目57番6号福山ビル2F 共同事務所  
 ☎ 03-6279-3002

税理士  
 著書  
 作詩

花のお江戸で ほか  
 真田のおんな旅(真田幸村公 NHK 大河ドラマ放映応援歌)  
 信濃・安曇野・梓川  
 母の祈り—慰霊美術館に眠るあなたに—ほか

# 祝 東京真田町の会 一会報25号—

公益社団法人 日本証券アナリスト協会 主催

## 個人投資家向け会社説明会を 定期的に開催しています！

個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。上場企業の経営陣から事業内容や経営方針、業績見通し等を直接聞くことができる絶好の機会です。是非ご参加ください。

### 1. 開催日程

	開催予定日程	会社数
第30回	平成25年2月：9日間	27社
	7日(木), 8日(金), 12日(火), 13日(水), 14日(木), 18日(月), 19日(火), 20日(水), 21日(木)	
第31回	平成25年3月：10日間	30社
	5日(火), 6日(水), 7日(木), 11日(月), 12日(火), 13日(水), 14日(木), 15日(金), 18日(月), 19日(火)	
第32回	平成25年4月：4日間	12社
	16日(火), 17日(水), 18日(木), 19日(金)	

### 2. 会場

当協会第1セミナールーム  
(東京証券取引所ビル6F)

### 3. 参加募集人員

先着200名(参加費無料)

### 4. 開催時間帯

12:30、13:35、14:40から  
各50分間(1日3社開催)

※申込方法等の詳細は各回開催日の1ヶ月前頃に  
当協会ホームページ (<http://www.saa.or.jp>) に  
掲載いたします。



### お問い合わせ先

**SAAJ**

### 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 (東京証券取引所ビル5階)

TEL : 03-3666-1632 FAX : 03-3666-6610

E-mail : [i-kaisai@saa.or.jp](mailto:i-kaisai@saa.or.jp)

ホームページ : <http://www.saa.or.jp>

## 「個人賛助会員」：入会のお勧め！

### ★充実した会員サービス

入会金：なし、年会費：18,000円(満65歳以上は12,000円)

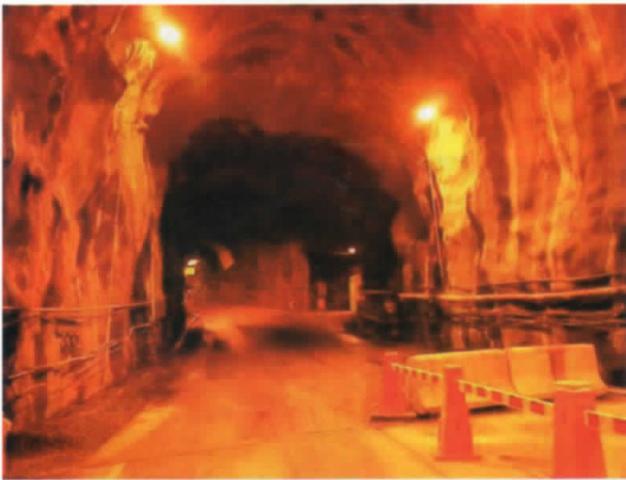
- ①会社説明会や工場見学に無料で参加
- ②講演会・セミナーへの参加が会員並価格
- ③機関誌「証券アナリストジャーナル」の毎月送付
- ④会社説明会・講演会・セミナー要旨の無料閲覧その他

★申込方法と詳細は協会ホームページをご覧ください。

(<http://www.saa.or.jp/member/pdf/kojinsanjo.pdf>)

—お問い合わせ先

会員担当：03-3666-1411



スウェーデン「ハードロック研究所」  
地下 450 メートルの岩盤で最終処分研究所



ヘルメットを着けて 取材中の古市礼子

14P  
に関連記事



中間貯蔵施設のプール 使用済み核燃料が入っています



総会のひとコマです(18頁に関連記事)





ふるさと訪問旅行の写真です(22 頁に関連記事)

故郷の写真アラカルト…あちらこちら



駒込橋付近



傍陽中組堤入谷



入軽井沢橋付近



石堂橋付近



信綱寺の黒門



あずまや高原ホテル



らいちょうの家



あじさいの小径

# 創立25周年 株式会社 真田不動産

株式会社真田不動産は創業25年、不動産業参入以来東京都内を中心に独自のネットワークによる不動産の買い付けおよび販売、不動産競売による入札及び競落業務を展開し、「中古住宅再生事業」を主たる業務としております。さらに自社所有物件、IMPERIAL(インペリアル)/巻～五番館は新新で人気の全65室を所有しております。



本社（インペリアル巻番館・弐番館）

## 会社概要

商号	株式会社 真田不動産
設立	昭和63年9月28日
所在地	東京都足立区綾瀬6丁目30番8号
登録番号	東京都知事(2)第87786号
電話	03-3620-2511
FAX	03-3620-2744
ホームページ	<a href="http://www.sanada-fudosan.com">www.sanada-fudosan.com</a>
代表者	取締役社長 堀内 政
事業内容	不動産の売買並びに収益物件の賃貸・管理(自社所有)
資本金	85,850,000円
取引金融機関	三井住友銀行、城北信用金庫、筑波銀行、滝野川信用金庫

## 営業方針

“小さくてもキラリと光る”営業指針を目指し、バランスシート(貸借対照表)を常に考慮の上、その時代の流れと不動産市況を柔軟に捉えながら、不動産競売(特別売却)のニッチ的要素を軸に、東京23区全域を網羅し、且つ、案件事に**即断・即決**で対応しています。

営業販路は、業者販売とエンドユーザー向けと、各々半分位の割合で、フットワークよく精力的に活動を行っております。また、自社所有の収益物件を2～3期ごとに取得しており、賃貸収入で企業収支の安定化を計り営業展開を遂行しております。



インペリアル巻番館/屋上庭園



インペリアル巻番館/屋上グリーン



真田勝どきビル跡地に建設  
54階建トライスター型タワーマンション  
(平成28年竣工)

## 〈お知らせ〉

弊社、株式会社真田不動産も創立25年の節目を迎えることが出来ました。

これもひとえに皆様方々のご支援のお陰と深く感謝しております。

節目となります今回で広告欄は打ち切りとなりますが、この広告を通じご相談及び問い合わせをいただいた皆様には、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年師走

日本ダボス 平成24年12月22日発行

発行 東京真田町の会 会長 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町2-19-6 TEL 03-5215-1511

FAX 03-5215-1512

編集委員 武捨 衛人 古市 礼子

印刷 上田市・精巧堂アオヤギ印刷